

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部における通信教育の開設									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ソウカダイガク 学校法人 創価大学									
フリガナ大学の名称	ソウカダイガク 創価大学（Soka University）									
大学本部の位置	東京都八王子市丹木町1丁目236番地									
大学の目的	創価大学は、人間教育を標榜する建学の精神に基づき、学校教育法により、広く知識を受けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、全人的な人間形成を図るとともに、文化の発展と人類の福祉に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的	文学部人間学科通信教育課程では、社会の高齢化にともなう人々の生涯学習へのニーズに対して、これまで以上に多様な教育・学習の機会を提供することが期待できる。それは、本学の文学部通信教育課程は、単学科であるが、幅広い教養を身につけるとともに、入学後に4つのメジャーに分類された（①異文化コミュニケーション（日本語）、②哲学・歴史学、③表現文化、④社会学）専門的な学問分野を学ぶことで、言語・人文・社会にわたる人間の広範な文化活動を深く学び研究することができるからである。文学部人間学科通信教育課程では、上記のような学びの中で、様々な資質と能力を備えて各界・各分野で本格的に活躍できる創造的人間の養成を目的としている。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	通信教育部 文学部 人間学科 計	4年	750人	3年次 100人	3200人	学士（文学）	平成30年4月 第1年次	東京都八王子市丹木町 1丁目236番地		
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	通信教育部 文学部 人間学科	講義	演習	実験・実習	計	149科目 13科目 0科目 162科目 124単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設分	通信教育部 文学部 人間学科		教授	准教授	講師	助教	計		助手
		計		22 (22)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	28 (28)		0 (0)
	既設分	経済学部 経済学科		11 (12)	9 (9)	4 (4)	0 (0)	24 (25)		0 (0)
		通信教育部 経済学部 経済学科		17 (22)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	27 (32)		0 (0)
文学部 人間学科		33 (38)	9 (11)	0 (1)	0 (2)	42 (52)	0 (0)			
								「（専任教員等）通学と兼ねる=28人」		

教 員 組 織 の 概 要	既 設	経営学部 経営学科	8 (8)	5 (5)	3 (3)	0 (1)	16 (17)	0 (0)	15 (15)
		教育学部 教育学科	7 (7)	5 (5)	0 (3)	0 (0)	12 (15)	0 (0)	15 (15)
		通信教育部 教育学部 教育学科	5 (7)	6 (6)	1 (3)	0 (0)	12 (16)	0 (0)	21 (21)
		教育学部 児童教育学科 通信教育部 教育学部 児童教育学科	8 (9)	3 (3)	0 (1)	0 (2)	11 (15)	0 (0)	3 (3)
		理工学部 情報システム工学科	18 (20)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	27 (29)	0 (0)	10 (10)
		理工学部 共生創造理工学科	7 (6)	8 (9)	8 (8)	13 (13)	36 (36)	3 (3)	8 (8)
		看護学部 看護学科	10 (10)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	0 (0)
		国際教養学部 国際教養学科	3 (5)	3 (4)	15 (18)	0 (6)	21 (33)	0 (0)	69 (69)
		学士課程教育機構	0 (0)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	10 (10)
		日本語・日本文化教育センター	3 (3)	0 (1)	1 (1)	0 (0)	4 (5)	0 (0)	0 (0)
		研究所	130 (147)	69 (74)	40 (50)	14 (25)	253 (296)	3 (3)	— (—)
		計	130 (147)	69 (74)	40 (50)	14 (25)	253 (296)	3 (3)	— (—)
		合計	130 (147)	69 (74)	40 (50)	14 (25)	253 (296)	3 (3)	— (—)
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	172 (172)	人		65 (65)	人		237 (237)	
	技 術 職 員	5 (5)			0 (0)			5 (5)	
	図 書 館 専 門 職 員	7 (7)			2 (2)			9 (9)	
	そ の 他 の 職 員	0 (0)			28 (28)			28 (28)	
計		184 (184)			95 (95)			279 (279)	
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	262,997.08 m ²	0 m ²		0 m ²		262,997.08 m ²		
	運 動 場 用 地	108,423.08 m ²	0 m ²		0 m ²		108,423.08 m ²		
	小 計	371,420.16 m ²	0 m ²		0 m ²		371,420.16 m ²		
	そ の 他	371,326.19 m ²	0 m ²		0 m ²		371,326.19 m ²		
合 計		742,746.35 m ²	0 m ²		0 m ²		742,746.35 m ²		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
		165,977.78 m ² (165,977.78 m ²)	0 m ² () m ²		0 m ² () m ²		165,977.78 m ² (165,977.78 m ²)		
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		
	79室	94室	12室		14室 (補助職員 0人)		1室 (補助職員 0人)		
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数				
		通信教育部 文学部 人間学科			29 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共 用分 図書： 940,997冊 (940,997冊) 雑誌： 6,134種 (6,134種) 機械・器具： 2,252点 (2,252点)	
	通信教育部 文学部 人間学科	349,579 [93,109] (349,579 [93,109])	867 [372] (867 [372])	9,706 [9,639] (9,706 [9,639])	1,918 (1,918)	0 (0)	0 (0)		
	計	349,579 [93,109] (349,579 [93,109])	867 [372] (867 [372])	9,706 [9,639] (9,706 [9,639])	1,918 (1,918)	0 (0)	0 (0)		

図書館		面積		閲覧座席数			収納可能冊数			大学全体	
		8,763.80 m ²		1,200 席			1,290,079 冊				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
		13,585.06 m ²		陸上競技場、野球場、ラグビー場							
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費は、既に通学課程の文学部を設置しており、また通信教育課程を他学部で設置しているため、追加計上しない。	
		教員1人当り研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円	—千円	—千円		
		共同研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円	—千円	—千円		
		図書購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	—千円	—千円			
	設備購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	—千円	—千円				
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次					
		116千円	89千円	89千円	89千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			寄付金、資産運用収入								
大学の名称 創価大学											
既設大学等の状況	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
			年	人	年次人	人		倍			
	経済学部 経済学科		4	200	—	800	学士(経済学)	1.08	昭和46年度	東京都八王子市丹木町1丁目236番地	
	法学部 法律学科		4	250	—	1,000	学士(法学)	1.06	昭和46年度		
	文学部 人間学科		4	370	—	1,480	学士(文学)	1.07	平成19年度		
	経営学部 経営学科		4	200	—	800	学士(経営学)	1.09	昭和51年度		
	教育学部							1.07			
	教育学科		4	80	—	320	学士(教育学)	1.07	昭和51年度		
	児童教育学科		4	100	—	400	学士(教育学)	1.06	昭和51年度		
	理工学部							1.08			
	情報システム工学科		4	80	—	310	学士(工学)	1.04	平成3年度		平成25年度入学定員減(△10人)
	共生創造理工学科		4	100	—	300	学士(理工学)	1.12	平成27年度		平成27年度入学定員増(10人)
	生命情報工学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成3年度		平成27年度より学生募集停止
	環境共生工学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成15年度		平成27年度より学生募集停止
	看護学部 看護学科		4	80	—	320	学士(看護学)	1.05	平成25年度		
	国際教養学部 国際教養学科		4	80	—	320	学士(国際教養学)	1.12	平成26年度		
	[通信教育部]										
	経済学部 経済学科		4	2,000	—	8,000	学士(経済学)	0.11	昭和51年度		
	法学部 法律学科		4	2,000	—	8,000	学士(法学)	0.10	昭和51年度		
	教育学部							0.79			
教育学科		4	300	—	1,200	学士(教育学)	1.10	昭和57年度			
児童教育学科		4	350	—	1,750	学士(教育学)	0.59	昭和57年度	平成27年度入学定員減(△350人)		
[大学院] (修士課程)											
文学研究科 国際言語教育専攻		2	15	—	30	修士(教育学)	1.09	平成21年度			
[大学院] (博士前期課程)											
経済学研究科 経済学専攻		2	15	—	30	修士(経済学)	1.03	昭和50年度			
法学研究科 法学専攻		2	15	—	30	修士(法学)	0.40	昭和50年度			

既設大学等の状況	文学研究科						0.45		
	英文学専攻	2	10	—	20	修士(英文学)	0.15	昭和50年度	
	社会学専攻	2	10	—	20	修士(社会学)	0.40	昭和50年度	
	教育学専攻	2	15	—	30	修士(教育学)	0.83	昭和61年度	
	人文学専攻	2	8	—	16	修士(人文学)	0.43	平成4年度	
	工学研究科						0.87		
	情報システム工学専攻	2	30	—	60	修士(工学)	0.91	平成7年度	
	生命情報工学専攻	2	20	—	40	修士(工学)	0.80	平成7年度	
	環境共生工学専攻	2	25	—	50	修士(工学)	0.92	平成19年度	
	[大学院] (博士後期課程)								
	経済学研究科 経済学専攻	3	5	—	15	博士(経済学)	0.13	昭和52年度	
	法学研究科 法律学専攻	3	3	—	9	博士(法学)	0.00	昭和52年度	
	文学研究科						0.09		
	英文学専攻	3	5	—	15	博士(英文学)	0.06	昭和52年度	
	社会学専攻	3	5	—	15	博士(社会学)	0.06	昭和52年度	
	教育学専攻	3	2	—	6	博士(教育学)	0.16	平成元年度	
	人文学専攻	3	4	—	12	博士(人文学)	0.08	平成6年度	
	工学研究科						0.83		
	情報システム工学専攻	3	4	—	12	博士(工学)	0.50	平成9年度	
	生命情報工学専攻	3	4	—	12	博士(工学)	0.66	平成9年度	
	環境共生工学専攻	3	3	—	9	博士(工学)	1.33	平成19年度	
	[大学院] (専門職課程)								
	法務研究科 法務専攻	3	28	—	86	法務博士(専門職)	0.72	平成16年度	平成28年度入学定員減(△2人)
	教職研究科 教職専攻	2	25	—	50	教職修士(専門職)	0.74	平成20年度	
[別科]									
日本語研修課程	1	35	—	35	—	1.37	昭和51年度		
特別履修課程	1	40	—	40	—	1.35	平成16年度		
大 学 の 名 称 創価女子短期大学									
学 部 等 の 名 称 修業年限 入学定員 編入学定員 収容定員 学位又は称号 定員超過率 開設年度 所在地									
現代ビジネス学科		2	150	—	300	短期大学士(現代ビジネス)	1.12	昭和60年度	東京都八王子市丹木町1丁目236番地
英語コミュニケーション学科		2	100	—	200	短期大学士(英語コミュニケーション)	1.09	昭和60年度	
附属施設の概要		<p>名称：平和問題研究所 目的：平和の達成に関する諸問題の調査・研究 設置年月：昭和51年4月 規模等：建物 32.86㎡(文系校舎内の7階) 設置場所：東京都八王子市丹木町一丁目236番地</p> <p>名称：比較文化研究所 目的：日本及び世界の文化に関する諸問題の比較研究 設置年月：昭和56年11月 規模等：建物 32.86㎡(文系校舎内の8階) 設置場所：東京都八王子市丹木町一丁目236番地</p>							

附属施設の概要	<p>名称：生命科学研究所 目的：生命並びにそれに関連する諸問題についての科学的な研究 設置年月：昭和63年12月 規模等：建物 1,783.00㎡ 実験室18室、研究室6室、教室1室、自習室2室、暗室2室、測定室2室、洗浄室1室、遠心機室1室、培養室1室、分配調合室1室、貯蔵室1室、廃棄物保管室1室、汚染検査室1室 設置場所：東京都八王子市丹木町一丁目236番地</p>
	<p>名称：国際仏教学高等研究所 目的：仏教の思想・哲学の特徴と現代的意義に関する研究 設置年月：平成9年4月 規模等：建物 811.90㎡（文系校舎別館の2階）研究室5室、リファレンス室1室、書庫2室 設置場所：東京都八王子市丹木町一丁目236番地</p>
	<p>名称：法科大学院要件事実教育研究所 目的：法科大学院における要件事実教育の充実と発展を図るための調査研究 設置年月：平成16年10月 規模等：建物 24.00㎡（本部棟校舎内の12階） 設置場所：東京都八王子市丹木町一丁目236番地</p>
	<p>名称：創価教育研究所 目的：創価教育の思想と実践の研究 設置年月：平成18年4月 規模等：建物 1,218.00㎡（文系校舎内の8階） 設置場所：東京都八王子市丹木町一丁目236番地</p>

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の出定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部人間学科 通信教育課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	大学科目	人間教育論	1通	2		○			4					兼8	オムニバス メディア・面接
		創価教育論	1通	2		○			1		1			兼7	オムニバス メディア・面接
		自立学習入門	1通	2		○			1					兼10	オムニバス メディア・面接・印刷教材
		小計(3科目)	—	2	4	0	—		5	0	1	0	0	兼23	—
言語科目 (英語)		英語ⅠA	1通	2		○			1					兼2	印刷教材
		英語ⅠB	1通	2		○			1					兼8	メディア・面接
		英語ⅡA	2通	2		○								兼2	印刷教材
		英語ⅡB	2通	2		○								兼5	メディア・面接
		小計(4科目)	—	4	4	0	—		1	0	0	0	0	兼10	—
言語科目 (第2外国語)		英会話Ⅰ	2通	2			○				6			兼6	メディア・面接
		英会話Ⅱ	2通	2			○				6			兼6	メディア・面接
		ドイツ語A	2通	2		○			1					兼1	印刷教材
		ドイツ語B	2通	2		○			1					兼1	メディア・面接
		フランス語A	2通	2		○								兼2	印刷教材
		フランス語B	2通	2		○								兼2	メディア・面接
		中国語Ⅰ	2通	2		○			1					兼2	メディア・面接
		中国語Ⅱ	2通	2		○			1					兼2	メディア・面接
		スペイン語A	2通	2		○			1						印刷教材
		スペイン語B	2通	2		○			1					兼1	メディア・面接
		ハングルⅠ	2通	2			○							兼3	メディア・面接
		ハングルⅡ	2通	2			○							兼4	メディア・面接
	小計(12科目)	—	0	24	0	—		3	0	0	0	0	兼15	—	
目健康 (その他) 体育科		体育講義B	1通	2		○			1	1				兼2	メディア・面接
		体育講義C	1通	2		○								兼1	メディア・面接・印刷教材
		小計(2科目)	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	兼3	—

教 育 課 程 等 の 概 要																
(文学部人間学科 通信教育課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	(人文分野科目)	文学A	1通	2		○									兼1	印刷教材
		文学B	1通	2		○				1						印刷教材
		哲学	1通	4		○					1				兼1	メディア・面接・印刷教材
		音楽	2通	4		○				1					兼2	メディア・面接・印刷教材
		美術	2通	4		○				1					兼2	印刷教材
		倫理学	2通	4		○				1					兼1	メディア・面接・印刷教材
		歴史	2通	4		○				1					兼2	オムニバス メディア・面接・印刷教材
		小計(7科目)	—	0	16	0	—			2	1	1	0	0	兼9	—
	(社会分野科目)	法学概説	1通	2		○				1					兼1	メディア・面接・印刷教材
		日本国憲法	1通	2		○				1	1				兼2	メディア・面接・印刷教材
		経済学	1通	4		○				1	2				兼3	オムニバス メディア・面接・印刷教材
		経営学入門	1通	4		○				1					兼1	メディア・面接・印刷教材
		心理学	1通	4		○				1					兼3	オムニバス メディア・面接・印刷教材
		社会学Ⅰ	2通	2		○				1	1				兼2	メディア・面接・印刷教材
		社会学Ⅱ	2通	2		○				1	1				兼1	メディア・面接・印刷教材
		政治学	2通	4		○				1					兼2	印刷教材
		教育学	2通	2		○				1					兼2	メディア・面接
		小計(9科目)	—	0	26	0	—			0	1	0	0	0	兼15	—
	(自然分野科目)	数学基礎	1通	4		○				1					兼2	オムニバス メディア・面接・印刷教材
		統計学入門	1通	4		○				3	2				兼6	オムニバス メディア・面接・印刷教材
		情報科学(情報と社会)	1通	2		○									兼1	印刷教材
		生命科学	1通	2		○									兼1	メディア・面接
		コンピュータ・リテラシー	2通	2				○		1					兼4	メディア・面接
		プログラミング	2通	2				○							兼4	メディア・面接
		環境科学	2通	2		○									兼2	メディア・面接・印刷教材
		小計(7科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼15	—

教育課程等の概要															
(文学部人間学科 通信教育課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	(平和・人権・世界科目 その他)	総合科目A	1通	2		○								兼1	メディア・面接
		平和学入門	1通	2		○			1						メディア・面接・印刷教材
		共通総合演習	1通	2			○							兼5	面接・印刷教材
		総合科目B	2通	2		○								兼1	メディア・面接・印刷教材
		地域研究A	2通	2		○								兼1	メディア・面接・印刷教材
		地域研究B	2通	2		○			1						メディア・面接
		地域研究C	2通	2		○								兼1	メディア・面接・印刷教材
		小計(7科目)	—	0	14	0	—			2	0	0	0	0	兼9
共通科目小計(51科目)		—	6	110	0	—			8	2	1	0	0	兼82	—
専門科目	インテロダクトリー科目	人間学	1通	2		○			3		1				オムニバス・共同(一部) メディア・面接
		異文化コミュニケーション入門	1通	2		○								兼1	メディア・面接
		哲学・思想への招待	1通	2		○			1					兼1	オムニバス・共同(一部) メディア・面接
		世界文学への招待	1通	2		○			6	1				兼1	オムニバス・共同(一部) メディア・面接
		表現文化論入門	1通	2		○			2	1				兼1	オムニバス・共同(一部) メディア・面接
		歴史学への招待	1通	2		○			1	1				兼1	オムニバス メディア・面接
		現代社会研究への招待	1通	2		○			3	1					オムニバス メディア・面接
		小計(7科目)	—	2	12	0	—			14	3	1	0	0	兼5
ベーシック科目	社会福祉論	1通	2		○				1						印刷教材
	日本語教育概論	1通	4		○								兼2	オムニバス メディア・面接・印刷教材	
	仏教思想概論	1通	2		○								兼1	印刷教材	
	西洋哲学史I	1通	2		○								兼1	メディア・面接	
	哲学概論	1通	2		○					1				メディア・面接	
	文学研究法入門I	1通	2		○			2	1				兼1	オムニバス メディア・面接	
	文学研究法入門II	1通	2		○				1				兼1	オムニバス 印刷教材	
	ロシア文学入門	1通	2		○				1					メディア・面接	
	日本文学概論	1通	2		○			1						メディア・面接	
	日本語学概論I	1通	2		○			1						印刷教材	
	日本語学概論II	1通	2		○			1						印刷教材	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部人間学科 通信教育課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 科目	ベーシック科目	比較文化Ⅰ	1通	2		○			1						メディア・面接
	比較文化Ⅱ	1通	2		○			1							印刷教材
	歴史学概論	1通	2		○									兼1	メディア・面接
	比較文化史概論	1通	2		○			1							印刷教材
	考古学概論	1通	2		○									兼1	印刷教材
	現代ロシア概論	1通	2		○			1							印刷教材
	国際関係論	1通	2		○			1							印刷教材
	社会調査の基礎	1通	2		○									兼1	印刷教材
	社会学概論	1通	2		○									兼1	メディア・面接
	文化人類学	1通	2		○			1							印刷教材
	日本語コミュニケーション論	2通	2		○			1						兼1	印刷教材
	対照言語学	2通	2		○									兼1	メディア・面接
	日本語音声学	2通	2		○									兼1	メディア・面接
	倫理学概論	2通	2		○			1						兼1	印刷教材
	日本思想史Ⅰ	2通	2		○									兼1	メディア・面接
	イギリス古典文学史	2通	2		○			1							印刷教材
	イギリス近代文学史	2通	2		○			1							印刷教材
	アメリカ文学史	2通	2		○			1							印刷教材
	演劇入門	2通	2		○			1							メディア・面接
	ロシアの歴史と文化	2通	2		○			1							メディア・面接
	東欧の歴史と文化	2通	2		○									兼1	印刷教材
	映画論	2通	2		○									兼1	メディア・面接
	日本文学史	2通	2		○									兼1	メディア・面接
	中国文学Ⅰ	2通	2		○									兼1	メディア・面接
中国文学Ⅱ	2通	2		○									兼1	印刷教材	
言語学概論	2通	4		○									兼2	オムニバス メディア・面接・印刷教材	
日本古代・中世史概説	2通	2		○			1							印刷教材	
西洋史概説Ⅰ	2通	2		○									兼1	メディア・面接	

教育課程等の概要															
(文学部人間学科 通信教育課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	ベーシック科目	西洋史概説Ⅱ	2通	2		○								兼1	メディア・面接
		東洋史概説Ⅰ	2通	2		○				1					印刷教材
		東洋史概説Ⅱ	2通	2		○				1					印刷教材
		現代中国概論	2通	2		○				1					印刷教材
		中央アジア論	2通	2		○				1					印刷教材
		社会学史概説	2通	2		○				1					メディア・面接
		家族の社会学	2通	2		○								兼1	メディア・面接
		地域と都市の社会学	2通	2		○								兼1	メディア・面接
		ジャーナリズムの社会学	2通	2		○								兼1	印刷教材
		宗教社会学	2通	2		○								兼1	印刷教材
		児童福祉論	2通	2		○								兼1	印刷教材
小計(50科目)		—	0	104	0	—			14	4	1		兼22	—	
アドヴァンスト科目	社会言語学	2通		2		○			1					印刷教材	
	日本語文法Ⅰ	2通		2		○			1					メディア・面接	
	日本語文法Ⅱ	2通		4		○			1					印刷教材	
	日本語教材研究Ⅰ	2通		2		○							兼3	オムニバス 面接・印刷教材	
	日本語教材研究Ⅱ	2通		2		○							兼3	オムニバス 面接・印刷教材	
	日本語教授法Ⅰ	2通		2		○							兼1	印刷教材	
	日本語教授法Ⅱ	2通		2		○							兼1	メディア・面接	
	日本語の表現	2通		2		○							兼1	メディア・面接	
	西洋哲学史Ⅱ	2通		2		○							兼1	印刷教材	
	論理学	2通		2		○							兼1	メディア・面接	
	科学哲学	2通		2		○							兼1	印刷教材	
	宗教学	2通		2		○							兼1	印刷教材	
	言語哲学	2通		2		○					1			印刷教材	
	東洋思想史	2通		2		○							兼1	印刷教材	
	日本思想史Ⅱ	2通		2		○							兼1	メディア・面接	
日本古典文学作家作品論	2通		2		○							兼1	メディア・面接		

教育課程等の概要															
(文学部人間学科 通信教育課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	アドヴァンスト科目	日本近代文学作家作品論	2通	2		○			1						メディア・面接
	漢文学特講Ⅰ	2通	2		○								兼1	メディア・面接	
	漢文学特講Ⅱ	2通	2		○								兼1	印刷教材	
	日本語の語彙・表記	2通	2		○			1						印刷教材	
	日本近世・近現代史概説	2通	2		○			1						印刷教材	
	中国の政治	2通	2		○			1						印刷教材	
	中国の経済	2通	2		○			1						印刷教材	
	メディアと社会心理	2通	2		○				1					印刷教材	
	歴史の社会学	2通	2		○			1						メディア・面接	
	ジェンダーの社会学	2通	2		○								兼1	印刷教材	
	現代宗教の社会学	2通	2		○								兼1	印刷教材	
	日本語教育学特講A	3通	2		○								兼1	メディア・面接	
	日本語教育学特講B	3通	2		○								兼1	印刷教材	
	日本語教育学特講C	3通	2		○								兼1	メディア・面接・印刷教材	
	言語習得理論	3通	4		○			1						メディア・面接・印刷教材	
	英米児童文学研究	3通	2		○			1						メディア・面接	
	ロシア文学	3通	2		○				1					印刷教材	
	中東文化論Ⅰ	3通	2		○			1						メディア・面接	
	中東文化論Ⅱ	3通	2		○			1						印刷教材	
	中央ユーラシア史	3通	2		○								兼1	メディア・面接	
	民俗学	3通	2		○								兼1	メディア・面接	
	西洋文化史	3通	2		○								兼1	メディア・面接	
	東洋文化史	3通	2		○								兼1	印刷教材	
	古文書学	3通	2		○								兼1	メディア・面接	
平和学	3通	2		○			1						メディア・面接		
人間の安全保障	3通	2		○			1						印刷教材		
国際社会論	3通	2		○			1						メディア・面接		
卒業研究AⅠ	3通	1		○			1						面接		

教 育 課 程 等 の 概 要																
(文学部人間学科 通信教育課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	アドヴァンスト科目	日本語教授法演習	4通	2				○						兼3	オムニバス 面接・印刷教材	
		日本語教育実習	4通	2				○						兼2	面接・印刷教材	
		卒業研究AⅡ（異文化コミュニケーション日本語）	4通		3				○	1						面接
		卒業研究AⅡ（哲学・歴史学）	4通		3				○	1	1				兼1	オムニバス 面接
		卒業研究AⅡ（表現文化）	4通		3				○	6	1					オムニバス 共同（一部）・面接
		卒業研究AⅡ（社会学）	4通		3				○	1						面接
		卒業研究B（異文化コミュニケーション日本語）	4通		4				○	1						印刷教材
		卒業研究B（哲学・歴史学）	4通		4				○	1					兼1	印刷教材
		卒業研究B（表現文化）	4通		4				○	6	1					オムニバス 印刷教材
		卒業研究B（社会学）	4通		4				○	1	1				兼1	印刷教材
		小計（54科目）	—	0	67	0			—	17	4	1	0	0	兼23	—
専門科目小計（111科目）		—	2	183	0			—	22	5	1	0	0	兼34	—	
合計（162科目）		—	8	293	0			—	22	5	1	0	0	兼110	—	
学位又は称号		学士（文学）			学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>■卒業要件</p> <p><1年次入学 卒業要件></p> <p>総合計124単位（うちメディアおよび面接で30単位以上）</p> <p>※共通科目、専門科目、自由選択科目の内訳は以下の通り。</p> <p>(1) 共通科目 40単位以上（うちメディアおよび面接で10単位以上）</p> <p>※以下を含むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学科目 4単位以上（必修科目2単位含む） ・言語科目（英語）4単位以上 ・言語科目（第2外国語）2単位以上 ・社会分野 8単位以上 ・自然分野 8単位以上 <p>(2) 専門科目 合計64単位以上（うちメディアおよび面接で20単位以上）</p> <p>※以下を含むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクトリー科目 6単位以上（必修科目2単位含む） ・ベーシック科目 22単位以上 ・アドヴァンスト科目 14単位以上（卒業研究4単位以上含む） <p>(3) 自由選択 20単位</p> <p>(1) 共通科目、(2) 専門科目の余剰修得分及び他学部他学科聴講の専門科目を含む</p> <p><3年次編入学 卒業要件></p> <p>専門科目 合計62単位以上（うちメディアおよび面接で14単位以上）</p> <p>※以下を含むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクトリー科目 6単位以上（必修科目2単位含む） ・ベーシック科目 22単位以上 ・アドヴァンスト科目 14単位以上（卒業研究4単位以上含む） <p>■履修科目の登録の上限：40単位（年間）</p>							1学年の学期区分			1学期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部人間学科 通学課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	①基礎科目	初年次セミナー	1前	2			○		9	4	1	1		兼65	
	①基礎科目	学術文章作法Ⅰ	1前・後	2			○							兼12	
	①基礎科目	思考技術基礎	1後		2		○							兼1	
	①基礎科目	数学基礎Ⅰ	1前・後		2		○							兼2	
	①基礎科目	数学基礎Ⅱ	1前・後		2		○							兼2	
	①基礎科目	統計学入門Ⅰ	1前・後		2		○		1	1				兼2	オムニバス
	①基礎科目	統計学入門Ⅱ	1前		2		○							兼1	
	①基礎科目	コンピュータ・リテラシーⅠ	1前・後		2		○							兼5	
	①基礎科目	コンピュータ・リテラシーⅡ	1前・後		2		○							兼1	
	①基礎科目	社会システム・ソリューションⅠ	1後		2		○							兼2	
	①基礎科目	学術文章作法Ⅱ	2前・後		2		○							兼1	
	①基礎科目	学術文章作法Ⅲ	3前・後		2		○							兼1	
	①基礎科目	社会システム・ソリューションⅡ	2前		2		○							兼1	
		小計(13科目)	—	4	22	0	—			10	4	1	1	0	兼89
大学科目	②大学科目	創価教育論	1前・後		2		○		1					兼6	オムニバス
	②大学科目	Soka Education	1前・後		2		○							兼2	オムニバス
	②大学科目	人間教育論A	1前・後		2		○		5					兼8	オムニバス
	②大学科目	人間教育論B	1前・後		2		○		3	1				兼4	オムニバス
	②大学科目	人間教育論C	1後		2		○		2	1				兼5	オムニバス
	②大学科目	共通基礎演習	1前・後		2			○	2					兼13	
	②大学科目	チュートリアルAⅠ	1前		1			○			1			兼9	
	②大学科目	チュートリアルAⅡ	1後		1			○			1			兼9	
	②大学科目	チュートリアルAⅢ	2前		1			○			1			兼9	
	②大学科目	チュートリアルAⅣ	2後		1			○			1			兼9	
	②大学科目	現代文明論	1前		2		○		1		1			兼2	オムニバス
	②大学科目	大学論	1後		2		○							兼3	オムニバス
	②大学科目	チュートリアルBⅠ	3前		1			○	2					兼12	
②大学科目	チュートリアルBⅡ	3後		1			○	2					兼12		

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(文学部人間学科 通学課程)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	② 大学科目	チュートリアルBⅢ	4前	1				○			2				兼12		
	チュートリアルBⅣ	4後		1				○			2				兼12		
		小計(16科目)	—	0	24	0		—			10	2	1	0	0	兼41	—
共通科目	③ 言語科目(英語)	English I	1前		2			○								兼29	
		English II	1後		2			○								兼27	
		English III	2前		1			○								兼17	
		English IV	2後		1			○								兼17	
		English Communication Advanced Intensive I	1前		2			○								兼2	
		English Communication Advanced Intensive II	1後		2			○								兼2	
		Test Preparation TOEFL I	2前		1			○								兼3	
		Test Preparation TOEFL II	2後		1			○								兼3	
		Test Preparation TOEIC I	2前		1			○								兼12	
		Test Preparation TOEIC II	2後		1			○								兼13	
		English for Study Abroad I	1前		2			○								兼1	
		English for Study Abroad II	1後		2			○								兼1	
		TOEFL Preparation for Study Abroad I	1前		2			○								兼1	
		TOEFL Preparation for Study Abroad II	1後		2			○								兼1	
		Professional English for Career Development I	2前		2			○								兼1	
		Professional English for Career Development II	2後		2			○								兼1	
		TOEIC Preparation for Career Development I	2前		2			○								兼1	
		TOEIC Preparation for Career Development II	2後		2			○								兼1	
		EAP for Global Citizenship I	1前		2			○								兼2	
		EAP for Global Citizenship II	1後		2			○								兼2	
EAP for Global Citizenship III	2前		2			○								兼2			
EAP for Global Citizenship IV	2後		2			○								兼2			
Academic Foundations for Global Citizenship I	1前		2			○								兼1			
Academic Foundations for Global Citizenship II	1後		2			○								兼1			
Academic Foundations for Global Citizenship III	2前		2			○								兼2			

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部人間学科 通学課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	③言語科目(英語)	Academic Foundations for Global Citizenship IV	2後	2		○								兼2	
	Academic Foundations for DD I	1前	2		○			1							
	Academic Foundations for DD II	1後	2		○			1							
	English Language Skills for DD I	1前	2		○				2						
	English Language Skills for DD II	1後	2		○				2						
	小計(30科目)	—	0	54	0	—			2	2	0	0	0	兼46	—
	③言語科目(他言語)	ドイツ語 I	1前	2		○			1			1		兼1	
	ドイツ語 II	1後	2		○			1			1		兼1		
	ドイツ語 III	2前	1		○								兼1		
	ドイツ語 IV	2後	1		○								兼1		
	ドイツ語 V	3前	1		○						1				
	ドイツ語 VI	3後	1		○						1				
	フランス語 I	1前	2		○									兼4	
	フランス語 II	1後	2		○									兼4	
	フランス語 III	2前	1		○									兼1	
	フランス語 IV	2後	1		○									兼1	
	フランス語 V	3前	1		○									兼1	
	フランス語 VI	3後	1		○									兼1	
	中国語 I	1前	2		○									兼10	
	中国語 II	1後	2		○									兼10	
中国語 III	2前	1		○									兼2		
中国語 IV	2後	1		○									兼2		
中国語 V	3前	1		○									兼1		
中国語 VI	3後	1		○									兼1		
D. D. 中国語 I	1前	1		○									兼1		
D. D. 中国語 II	1前	1		○									兼1		
D. D. 中国語 III	1後	1		○									兼1		
D. D. 中国語 IV	1後	1		○									兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要														
(文学部人間学科 通学課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
共通 科目	③ 言語科目(他言語)	スペイン語Ⅰ	1前	2		○			1					兼3
	スペイン語Ⅱ	1後	2		○			1					兼3	
	スペイン語Ⅲ	2前	1		○								兼1	
	スペイン語Ⅳ	2後	1		○								兼1	
	スペイン語Ⅴ	3前	1		○								兼1	
	スペイン語Ⅵ	3後	1		○								兼1	
	イタリア語Ⅰ	1前	2		○								兼2	
	イタリア語Ⅱ	1後	2		○								兼2	
	イタリア語Ⅲ	2前	1		○								兼1	
	イタリア語Ⅳ	2後	1		○								兼1	
	イタリア語Ⅴ	3前	1		○								兼1	
	イタリア語Ⅵ	3後	1		○								兼1	
	ハンブルⅠ	1前	2		○								兼4	
	ハンブルⅡ	1後	2		○								兼4	
	ハンブルⅢ	2前	1		○								兼1	
	ハンブルⅣ	2後	1		○								兼1	
	ハンブルⅤ	3前	1		○								兼1	
	ハンブルⅥ	3後	1		○								兼1	
	ロシア語Ⅰ	1前	2		○				1				兼1	
	ロシア語Ⅱ	1後	2		○				1				兼1	
	ロシア語Ⅲ	2前	1		○				1					
	ロシア語Ⅳ	2後	1		○				1					
	ロシア語Ⅴ	3前	1		○				1					
	ロシア語Ⅵ	3後	1		○				1					
日本語Ⅰ	1前	2		○									兼8	
日本語Ⅱ	1後	2		○									兼8	
日本語Ⅲ	2前	1		○									兼1	
日本語Ⅳ	2後	1		○									兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(文学部人間学科 通学課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	③言語科目(他言語)	日本語V	3前	1		○								兼1
	日本語VI	3後	1		○									兼1
	ポルトガル語I	2前	1		○									兼1
	ポルトガル語II	2後	1		○									兼1
	ポルトガル語III	3前	1		○									兼1
	ポルトガル語IV	3後	1		○									兼1
	アラビア語I	2前	1		○				1					
	アラビア語II	2後	1		○				1					
	アラビア語III	3前	1		○				1					
	アラビア語IV	3後	1		○				1					
	スワヒリ語I	2前	1		○									兼1
	スワヒリ語II	2後	1		○									兼1
	スワヒリ語III	3前	1		○									兼1
	スワヒリ語IV	3後	2		○									兼1
	タイ語I	2前	2		○									兼1
	タイ語II	2後	1		○									兼1
	タイ語III	3前	1		○									兼1
	タイ語IV	3後	1		○									兼1
	トルコ語I	2前	1		○									兼1
	トルコ語II	2後	1		○									兼1
トルコ語III	3前	1		○									兼1	
トルコ語IV	3後	1		○									兼1	
ブルガリア語I	2前	1		○									兼1	
ブルガリア語II	2後	1		○									兼1	
ブルガリア語III	3前	1		○									兼1	
ブルガリア語IV	3後	1		○									兼1	
モンゴル語I	2前	1		○									兼1	
モンゴル語II	2後	1		○									兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部人間学科 通学課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	③言語科目(他言語)	モンゴル語Ⅲ	3前	1		○								兼1	
	モンゴル語Ⅳ	3後	1		○									兼1	
	インドネシア・マレー語Ⅰ	2前	1		○			1							
	インドネシア・マレー語Ⅱ	2後	1		○			1							
	インドネシア・マレー語Ⅲ	3前	1		○			1							
	インドネシア・マレー語Ⅳ	3後	1		○			1							
	ベトナム語Ⅰ	2前	1		○									兼1	
	ベトナム語Ⅱ	2後	1		○									兼1	
	ベトナム語Ⅲ	3前	1		○									兼1	
	ベトナム語Ⅳ	3後	1		○									兼1	
	言語演習Ⅰ	3前	1		○									兼2	
	言語演習Ⅱ	3後	1		○									兼2	
	言語演習Ⅲ	4前	1		○									兼1	
	言語演習Ⅳ	4後	1		○									兼1	
		小計(92科目)	—	0	110	0	—		5	0	0	1	0	兼43	—
④世界市民教育科目	平和学A	1前・後	2		○									兼2	
	平和学B	1前・後	2		○			1							
	国際開発学	1前・後	2		○									兼4	オムニバス
	環境科学A	1前・後	2		○									兼3	
	環境科学B	1前・後	2		○									兼2	
	ライフイベントとジェンダー	3前	2		○					1				兼6	オムニバス
	総合科目特講	1後	2		○			1							オムニバス
	現代マスコミ論	3・4後	2		○			1							オムニバス
	国際ボランティア実習	2・3後	2											兼1	
	八王子学Ⅰ	1前	2		○			1							オムニバス
	地域研究A	1前・後	2		○			2						兼2	
	地域研究B	1前・後	2		○			1						兼5	
日本研究A	1前	2		○									兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部人間学科 通学課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	④世界市民教育科目	日本研究B	1後	2		○								兼2	
	共通総合演習A	1前	2			○								兼16	
	共通総合演習B	1後	2			○								兼14	
	ボランティア入門	1前・後	2			○								兼1	
	留学のための国際理解	1後	2			○								兼1	オムニバス
	スマート・リーダーシップⅠ	1前・後	2			○								兼1	
	ワールドビジネスフォーラム	1前	2			○								兼1	
	海外インターンシップⅠ	2前	2					○						兼1	
	海外インターンシップⅡ	2後	2					○						兼1	
	プログラムゼミⅡ	1後	2					○						兼2	
	プログラムゼミⅢ	2前	2					○						兼2	
	プログラムゼミⅣ	2後	2					○						兼2	
	Study AbroadⅠ	2前	2						○					兼1	
	Study AbroadⅡ	2後	2							○				兼1	
	Study AbroadⅢ	3前	2								○			兼1	
	Study AbroadⅣ	3後	2									○		兼1	
	海外インターンシップⅢ	3前	2										○	兼1	
	海外インターンシップⅣ	3後	2											○	兼1
	スマート・リーダーシップⅡ	2前	2					○						兼2	
	スマート・リーダーシップⅢ	2後	2					○						兼1	
	ボランティアⅠ	1前・後	1											○	兼3
ボランティアⅡ	2前・後	1											○	兼3	
八王子学Ⅱ(地域貢献学習)	2前	2					○							兼2	
世界市民教育演習	2前・後	2											○	兼3	
小計(37科目)		—	0	72	0	—			6	0	1	0	0	兼43	—

教 育 課 程 等 の 概 要																
(文学部人間学科 通学課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	⑤ 人文科学系科目	音楽	1前・後	2		○								兼2		
	美術	1前・後	2		○									兼1		
	文学	1前・後	2		○				2					兼2		
	哲学	1前・後	2		○						1			兼2		
	倫理学	1前・後	2		○									兼1		
	宗教学	1前・後	2		○									兼5		
	歴史学	1前・後	2		○				1	1				兼6		
	言語学	1後	2		○				3						オムニバス	
	小計(8科目)	—	0	16	0	—			6	1	1	0	0	兼16	—	
	⑥ 社会科学系科目	法学概説	1前・後	2		○									兼1	
	日本国憲法	1前・後	2		○										兼2	
	経済学Ⅰ	1前	2		○										兼2	
	経済学Ⅱ	1後	2		○										兼2	
	経営学	1前・後	2		○										兼2	
	社会学	1前・後	2		○						1				兼4	
	国際関係論入門	1前・後	2		○						1				兼3	
	政治学	1前・後	2		○										兼4	
	心理学入門	1前・後	2		○										兼4	
	教養地理学	1前・後	2		○										兼1	
	教育学	1前・後	2		○										兼1	
	小計(11科目)	—	0	22	0	—			1	1	0	0	0	兼22	—	
	⑦ 自然・健康科学系科目	物理科学	1前・後	2		○									兼2	
	プログラミング	1前・後	2		○										兼1	
	情報科学	1前・後	2		○										兼4	
生命科学	1前・後	2		○										兼5		
体育実技A	1前・後	1						○						兼4		
体育実技B	1前・後	1						○						兼4		
体育実技C	1前・後	1						○						兼5		

教 育 課 程 等 の 概 要																
(文学部人間学科 通学課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	⑦自然・健康科学系科目	体育実技D	1前・後	1				○						兼6		
	体育講義	1前・後	2			○								兼5		
	スポーツフィジカルサイエンス	3前	2			○								兼1		
	小計（10科目）	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	兼19	—	
	⑧キャリア教育系科目	キャリアデザイン基礎	1前・後	2				○							兼2	
		キャリアビジョンⅠ	3後	2			○			3					兼12	
		キャリアビジョンⅡ	4後	2			○								兼2	
		キャリア開発フォーラム	1・2前	2			○								兼1	
		トップが語る現代経営	2後	2			○			1					兼1	
		企業研究	3後	2			○								兼1	
		インターンシップⅠ	2前	1					○						兼1	
		インターンシップⅡ	2後	1					○						兼1	
		インターンシップⅢ	3前	2					○						兼1	
インターンシップⅣ		3後	2					○						兼1		
プログラムゼミⅠ	1前	2					○						兼3			
小計（11科目）	—	0	20	0	—			3	1	0	0	0	兼17	—		
⑨日本語・日本文化科目（※外国人留学生のみ履修可）	日本語基礎	1前・後	3			○								兼3		
	日本語総合入門	1前・後	5			○								兼5		
	日本語総合Ⅰ	1前・後	5			○								兼5		
	日本語演習入門	1前・後	1			○								兼1		
	日本語演習Ⅰ	1前・後	1			○								兼1		
	日本語口頭表現入門	1前・後	1			○								兼1		
	日本語口頭表現Ⅰ	1前・後	1			○								兼1		
	日本語口頭表現ⅡA	1前・後	1			○								兼1		
	日本語口頭表現ⅡB	1前・後	1			○								兼1		
	日本語口頭表現ⅢA	1前・後	1			○								兼2		
	日本語口頭表現ⅢB	1前・後	1			○								兼2		
日本語口頭表現ⅣA	1前・後	1			○								兼2			

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部人間学科 通学課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共通 科目	⑨ 日本語口頭表現ⅣB	1前・後		1		○									兼2
	日本語聴解入門	1前・後		1		○									兼1
	日本語聴解Ⅰ	1前・後		1		○									兼1
	日本語聴解ⅡA	1前・後		1		○									兼1
	日本語聴解ⅡB	1前・後		1		○									兼1
	日本語聴解ⅢA	1前・後		1		○									兼1
	日本語聴解ⅢB	1前・後		1		○									兼1
	日本語聴解ⅣA	1前・後		1		○									兼1
	日本語聴解ⅣB	1前・後		1		○									兼1
	日本語聴解ⅤA	2前・後		1		○									兼1
	日本語聴解ⅤB	2前・後		1		○									兼1
	日本語文章表現入門	1前・後		1		○									兼1
	日本語文章表現Ⅰ	1前・後		1		○									兼1
	日本語文章表現Ⅱ	1前・後		1		○									兼1
	日本語文章表現Ⅲ	1前・後		1		○									兼2
	日本語文章表現Ⅳ	1前・後		1		○									兼2
	日本語文法Ⅱ	1前・後		1		○									兼1
	日本語文法Ⅲ	1前・後		1		○									兼1
	日本語文法Ⅳ	1前・後		1		○									兼1
	日本語読解ⅡA	1前・後		1		○									兼1
	日本語読解ⅡB	1前・後		1		○									兼1
	日本語読解ⅢA	1前・後		1		○									兼1
	日本語読解ⅢB	1前・後		1		○									兼1
日本語読解ⅣA	1前・後		1		○									兼1	
日本語読解ⅣB	1前・後		1		○									兼1	
日本語読解ⅤA	2前・後		1		○									兼1	
日本語読解ⅤB	2前・後		1		○									兼1	
初級漢字	1前・後		1		○									兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部人間学科 通学課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
⑨ 日本語・ 文化科目 (※)	日本伝統文化	1前・後		2		○								兼1	オムニバス
	日本語表現V A	2前・後		1		○								兼1	
	日本語表現V B	2前・後		1		○								兼1	
	小計 (43科目)	—	0	54	0	—								兼16	—
	共通科目小計 (271科目)	—	4	410	0	—			27	7	2	2	0	兼263	—
専 門 科 目	(選 択 必 修 科 目)	人間学	1前		2		○			3					
		Introduction to Humanities	1前		2		○					1			
		小計 (2科目)	—	0	4	0	—			3	0	1	0	0	—
	(選 択 科 目)	異文化コミュニケーション	1前・後		2		○			5	2				
		言語文化への招待	1後		2		○			1					
		哲学・思想への招待	1前		2		○			1					
		歴史学への招待	1前		2		○			3					
		世界文学への招待	1前・後		2		○			8	1			兼1	オムニバス
		表現文化論入門	1前・後		2		○			4	2				オムニバス
		国際日本学への招待	1前		2		○			9	2			兼1	オムニバス
		Global Japan Studies	1前		2		○				1				
		Human and Society	1後		2		○				1				
現代社会研究への招待		1前		2		○			4						
社会福祉入門	1前		2		○				1						
小計 (11科目)	—	0	22	0	—			18	6				兼2	—	
(選 択 必 修 科 目)	文学部の学びとライフデザイン	2前		2		○			1						
	Academic Foundations for Humanities	2前		2			○							兼1	
	Academic Foundations for Humanities (DD)	2前		2			○			1					
	小計 (3科目)	—	0	6	0	—			1	1				兼1	—

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部人間学科 通学課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 ベーシック科目 (選択科目)	学部インターンシップ	2前		2				○	1						
	Literature I	1~4前		2	○				1						
	Literature II	1~4後		2	○				1						
	Peace Studies I	1~4前		2	○				1						
	Peace Studies II	1~4後		2	○				1						
	Cultural Representaion I	1~4前		2	○					1					
	Cultural Representaion II	1~4後		2	○					1					
	Academic Writing A I	1・2前		2		○			3						兼1
	Academic Writing A II	1・2後		2		○			3						兼1
	時事英語 A I	1・2前		2		○									兼1
	時事英語 A II	1・2後		2		○									兼1
	時事英語 B I	1・2前		2		○				1					
	時事英語 B II	1・2後		2		○				1					
	英米文学講読 I	1・2 前・後		2		○			2						
	Academic Writing B I	1・2前		2		○				1					
	Academic Writing B II	1・2後		2		○				1					
	Oral Communication in English I	1・2前		1		○				1					兼2
	Oral Communication in English II	1・2後		1		○				1					兼2
	英語翻訳入門 I	1・2前		2		○			1						
	英語翻訳入門 II	1・2後		2		○			1						
	Comparative Culture I	1前		2		○				1					
	Comparative Culture II	1後		2		○				1					
	日本語文化研究	1前		2		○				1					
	国際交流と日本社会	1後		2		○			9	2					兼2
	英語で日本紹介 I	1前		2			○								兼1
	英語で日本紹介 II	1後		2			○								兼1
社会で通用する日本語	1前		2			○		1							
第二言語習得論入門	1前		2		○				1						

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部人間学科 通学課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	ペ ー シ ン ク 科 目 (選 択 科 目)	Interpersonal Communication	1前	2		○			1						
		Mass Communication	1後	2		○			1						
		英語通訳演習A	2前・後	2			○			1					兼1
		英語翻訳演習A	2前・後	2				○							兼1
		日本語教育概論 I	1前	2		○				1					
		日本語学概論 I	1前	2		○				1					
		日本語学概論 II	1後	2		○				1					
		日本語コミュニケーション論	1後	2		○				1					
		言語学概論 I	2前	2		○				1					
		言語学概論 II	2後	2		○				1					
		対照言語学 I	2前	2		○				1					
		対照言語学 II	2後	2		○				1					
		日本語音声学	2前	2		○									兼1
		中国語学入門 I	1前	2		○				1					
		中国語学入門 II	1後	2		○				1					
		中国語コミュニケーション演習初級 I	1前	2				○			1				
		中国語コミュニケーション演習初級 II	1後	2				○			1				
		中国語講読初級 I	1前	2				○			1				
		中国語講読初級 II	1後	2				○			1				
		中国社会文化入門 I	1前	2		○				1					
		中国社会文化入門 II	1後	2		○				1					
		中国近現代の歴史と思想	2前	2		○				1					
		中国語コミュニケーション演習中級 I	2前	2				○			1				
		中国語コミュニケーション演習中級 II	2後	2				○			1				
		中国語文法中級 I	2前	2		○					1				
		中国語文法中級 II	2後	2		○					1				
		中国語講読中級 I	2前	2				○			1				
		中国語講読中級 II	2後	2				○			1				

教 育 課 程 等 の 概 要																
(文学部人間学科 通学課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専 門 科 目	ベ ー シ ッ ク 科 目 (選 択 科 目)	歴史学概論	1後	2		○			1							
		History I	1前	2		○								兼1		
		日本古代・中世史概説	2後	2		○				1						
		比較文化史概論	1後	2		○				1						
		考古学概論	1後	2		○				1						
		東洋史概説 I	2前	2		○					1					
		東洋史概説 II	2後	2		○					1					
		西洋史概説 I	2前	2		○									兼1	
		西洋史概説 II	2後	2		○									兼1	
		文学研究法入門 I	1前	2		○				1	1					
		文学研究法入門 II	1後	2		○				1	1					
		文芸創作 I	2前	2				○							兼1	
		文芸創作 II	2後	2				○							兼1	
		英米文学講読 II	2前・後	2				○		1						
		英米文学概論 I	2前	2				○		2						
		英米文学概論 II	2後	2				○		2						
		イギリス古典文学史	2前	2				○		1						
		イギリス近代文学史	2後	2				○		1						
		アメリカ文学史	2前	2				○		1						
		演劇入門	2前	2				○		1						
		ロシア文学入門	1後	2				○			1					
		ロシアの歴史と文化	2前	2				○		1						
		東欧の歴史と文化	2後	2				○							兼1	
		映画論	2前	2				○							兼1	
		日本文学概論 I	1前	2				○							兼1	
		日本文学概論 II	1後	2				○		1						
日本古典文学講読	2後	2					○						兼1			
日本近代文学講読	2後	2					○	1								

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部人間学科 通学課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	ベーシック科目(選択科目)	日本文学史	2後	2		○									兼1
	書道Ⅰ	1後	2			○									兼1
	書道Ⅱ	2後	2			○									兼1
	中国文学Ⅰ	2前	2		○				1						
	中国文学Ⅱ	2後	2		○				1						
	英語学概論Ⅰ	1前・後	2		○				2						
	Introduction to Linguistics	1前	2		○										兼1
	英語学概論Ⅱ	1後	2		○				1						
	英文法研究Ⅰ	2前	2		○				1						
	英文法研究Ⅱ	2後	2		○				1						
	英語音声学	2前・後	2		○				1						
	日英語比較概説	1後	2		○				1						
	ドイツ語文法研究Ⅰ	1前	2		○										兼1
	ドイツ語文法研究Ⅱ	1後	2		○										兼1
	スペイン語文法研究Ⅰ	1前	2		○										兼1
	スペイン語文法研究Ⅱ	1後	2		○										兼1
	中国語学概論Ⅰ	1前	2		○										兼1
	中国語学概論Ⅱ	1後	2		○										兼1
	現代中国概論	1後	2		○				1						
	現代ロシア概論	1後	2		○				1						
	東アジアの政治	2前	2		○				1						
	東アジアの経済	2前	2		○				1						
	比較文化Ⅰ	1前	2		○				1						
	比較文化Ⅱ	1後	2		○				1						
	中央アジア論	2後	2		○				1						
	国際関係論	1前	2		○				1						
	社会調査の基礎	1後	2		○				1						
	文化人類入門	1前	2		○				1						

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部人間学科 通学課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 科目	ベー シッ ク 科 目 (選 択 科 目)	現代文化人類学	2後	2		○			1						
		社会学概論	1後	2		○			1						
		社会学理論と社会システム	1後	2		○			1						
		心理学理論と心理的支援	1前	2		○								兼1	
		社会学史概説	2前	2		○			1						
		資料収集・データ分析法	2後	2				○		1					
		家族の社会学	2前	2		○			1						
		地域と都市の社会学	2後	2		○			1						
		宗教社会学	2後	2		○								兼1	
		ジャーナリズムの社会学	2前	2		○								兼1	
		社会調査方法論	2前	2		○				1					
		質的調査分析法	2前	2				○		1					
		社会統計学	2後	2		○				1					
		社会福祉概論Ⅰ	2前	2		○				1					
		社会福祉概論Ⅱ	2後	2		○				1					
		地域福祉論Ⅰ	3前	2		○					1				
		地域福祉論Ⅱ	3後	2		○					1				
		児童福祉論Ⅰ	2前	2		○					1				
		児童福祉論Ⅱ	2後	2		○					1				
		障害者福祉論Ⅰ	2前	2		○				1					
		障害者福祉論Ⅱ	2後	2		○				1					
		高齢者福祉論Ⅰ	3前	2		○				1					
		高齢者福祉論Ⅱ	3後	2		○				1					
		英語科教育法Ⅰ	2前・後	2		○				1					
		英語科教育法Ⅱ	2後	2		○				1					
		国語科教育法Ⅰ	2前	2		○								兼1	
国語科教育法Ⅱ	2後	2		○								兼1			
小計（167科目）		—	0	326	0		—	35	9	2	0	0	兼29	—	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(文学部人間学科 通学課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	アドヴァンスト科目(選択必修科目)	演習Ⅰ：人間	3前	2			○		32	8	2			
	SeminarⅠ	3前	2			○		3	1					
	演習Ⅱ：人間	3後	2			○		32	8	2				
	SeminarⅡ	3後	2			○		3	1					
	演習Ⅲ：人間	4前	2			○		32	8	2				
	SeminarⅢ	4前	2			○		3	1					
	演習Ⅳ：人間	4後	2			○		32	8	2				
	SeminarⅣ	4後	2			○		3	1					
	卒業論文研究Ⅰ	4前	2			○		32	8	2				
	Thesis Preparation	4前	2			○		3	1					
	卒業論文研究Ⅱ	4後	4			○		32	8	2				
	Thesis	4後	4			○		3	1					
小計(12科目)	—	0	28	0	—		35	9	2	0	0	—		
アドヴァンスト科目(選択科目)	第二言語習得論	2前	2			○			1					
	Intercultural Communication	2前	2			○		1						
	Global Communication	2後	2			○		1						
	English in Society	2前	2		○			1						
	English in Institutions	2後	2		○			1						
	英語翻訳演習B	2前・後	2			○		1						
	英語通訳演習B	2前・後	2			○							兼1	
	英語翻訳論	2後	2			○							兼1	
	Translation Studies	2後	2			○							兼1	
	Teaching English for Academic Purposes	2前	2		○								兼1	
	Text StudiesⅠ	2前	2		○				1					
	Text StudiesⅡ	2後	2		○				1					
	Special Lecture A	3前	2		○								兼1	
	Special Lecture B	3後	2		○								兼1	
英語特講A	2前	2		○								兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部人間学科 通学課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 科目	アドヴァンスト科目(選択科目)	英語特講B	2後	2		○									兼1
	日本語教育学特講A	3前	2		○										兼1
	日本語教育学特講B	3後	2		○										兼1
	日本語教育学特講C	3後	2		○										兼1
	社会言語学	2前	2		○				1						
	現代日本語文法A	2前	2		○				1						
	現代日本語文法B	2後	2		○				1						
	日本語教材研究I	2前	2		○				1						
	日本語教材研究II	2後	2		○				1						
	日本語教授法I	2前	2		○				1						
	日本語教授法II	2後	2		○				1						
	日本語の表現	2後	2		○				1						
	日本語教育実習	3・4後	2				○		1						
	日本語教授法演習	3・4前	2					○							兼1
	中国語学中上級I	3前	2		○					1					
	中国語学中上級II	3後	2		○					1					
	中国語作文中上級I	3前	2		○				1						
	中国語作文中上級II	3後	2				○		1						
	中国語コミュニケーション演習中上級I	3前	2				○		1						
	中国語コミュニケーション演習中上級II	3後	2				○		1						
	通訳演習(日中)A	3前	2				○			1					
	通訳演習(日中)B	3後	2				○			1					
	通訳演習(中日)A	3前	2				○		1						
	通訳演習(中日)B	3後	2				○		1						
翻訳演習(日中)A	3前	2				○		1							
翻訳演習(日中)B	3後	2				○		1							
翻訳演習(中日)A	3前	2				○		1							
翻訳演習(中日)B	3後	2				○		1							

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部人間学科 通学課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 科目	アドヴァンスト科目(選択科目)	ロシア語文法上級Ⅰ	3前	2		○				1					
	ロシア語文法上級Ⅱ	3後	2		○				1						
	ロシア語コミュニケーション上級Ⅰ	3前	1			○			1						
	ロシア語コミュニケーション上級Ⅱ	3後	1			○			1						
	ロシア語翻訳上級Ⅰ	3前	2			○								兼1	
	ロシア語翻訳上級Ⅱ	3後	2			○								兼1	
	時事ロシア語	3前	2			○			1						
	ロシア文学講読Ⅰ	3前	2			○			1						
	ロシア文学講読Ⅱ	3後	2			○			1						
	西洋哲学史Ⅱ	2後	2			○								兼1	
	東洋思想史	2前	2			○			1						
	日本思想史Ⅱ	2後	2			○								兼1	
	Philosophy Ⅱ	2後	2			○					1				
	論理学	2後	2			○								兼1	
	言語哲学	2前	2			○					1				
	宗教学	2前	2			○			1						
	科学哲学	2前	2			○								兼1	
	民俗学	3前	2			○								兼1	
	西洋文化史	3前	2			○				1					
	東洋文化史	3後	2			○								兼1	
	古文書学	3前	2			○			1						
	日本近世・近現代史概説	3前	2			○			1						
	HistoryⅡ	3後	2			○								兼1	
	中央ユーラシア史	3前	2			○								兼1	
歴史学特講A	3前	2			○								兼1		
歴史学特講B	3後	2			○								兼1		
歴史学特講C	3前	2			○				1						
英米児童文学研究	3後	2			○				1						

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部人間学科 通学課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 科目	アドヴァンスト科目(選択科目)	演劇論	3後	2		○			1						
	ロシア文学	3前		2		○				1					
	中東文化論Ⅰ	3前		2		○			1						
	中東文化論Ⅱ	3後		2		○			1						
	日本古典文学作家作品論A	2前		2		○								兼1	
	日本古典文学作家作品論B	2後		2		○								兼1	
	日本近代文学作家作品論A	2前		2		○			1						
	日本近代文学作家作品論B	2前		2		○								兼1	
	日本文学特講A	3前		2		○								兼1	
	日本文学特講B	3後		2		○								兼1	
	日本文学特講C	3前		2		○								兼1	
	ディベート日本学	2・3後		2			○		7	3					
	サブカルチャー論	2・3前		2		○				1					
	漢文学特講Ⅰ	2前		2		○			1						
	漢文学特講Ⅱ	2後		2		○			1						
	中・古期英語史と文化	2前		2		○			1						
	近代英語史と文化	2後		2		○			1						
	認知英語学	2後		2		○			1						
	日英語比較研究	2後		2		○			1						
	ドイツ言語文化研究Ⅰ	2前		2		○			1						
	ドイツ言語文化研究Ⅱ	2後		2		○			1						
	スペイン言語文化研究Ⅰ	2前		2		○			1						
	スペイン言語文化研究Ⅱ	2後		2		○			1						
	ロシア語学Ⅰ	2前		2		○								兼1	
	ロシア語学Ⅱ	2後		2		○								兼1	
	中国語文法研究Ⅰ	2前		2		○								兼1	
中国語文法研究Ⅱ	2後		2		○								兼1		
日本語の語彙・表記	2前		2		○			1							

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部人間学科 通学課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 科目	アドヴァンスト科目(選択科目)	日本語学特講A	3前	2		○			1						
	日本語学特講B	3後	2		○			1							
	中国の政治	2後	2		○			1							
	中国の経済	2後	2		○			1							
	ロシアの社会	3前	2		○			1							
	ロシアの経済	3後	2		○			1							
	平和学	3後	2		○			1							
	人間の安全保障	3前	2		○			1							
	国際社会論	3前	2		○			1							
	東アジア共同体と安全保障論	3前・後	2		○			1						兼1	
	平和構築ワークショップ I	3前	2			○								兼1	
	Peace Studies Workshop I	3前	2			○								兼1	
	平和構築ワークショップ II	3後	2			○								兼1	
	Peace Studies Workshop II	3後	2			○								兼1	
	ジェンダーの社会学	2後	2		○									兼1	
	教育の社会学	2後	2		○			1							
	メディアと社会心理	2後	2		○				1						
	歴史の社会学	3前	2		○			1							
	現代宗教の社会学	3前	2		○									兼1	
	映像の社会学	3後	2		○			1							
	サーベイ調査実習	3前	2				○	1							
	フィールド調査実習	3後	2				○	1							
	人間学外書講読 I (英語)	2・3・4前	2			○		1							
	人間学外書講読 II (英語)	2・3・4後	2			○		1							
	人間学外書講読 I (フランス語)	2・3・4前	2			○		1							
	人間学外書講読 II (フランス語)	2・3・4後	2			○		1							
人間学外書講読 I (ドイツ語)	2・3・4前	2			○		1								
人間学外書講読 II (ドイツ語)	2・3・4後	2			○		1								

教 育 課 程 等 の 概 要														
(文学部人間学科 通学課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	アドヴァンスト科目(選択科目)	人間学外書講読Ⅰ(西洋古典語)	2・3・4前	2			○							兼1
	人間学外書講読Ⅱ(西洋古典語)	2・3・4後	2			○								兼1
	人間学外書講読Ⅰ(サンスクリット語)	2・3・4前	2			○								兼1
	人間学外書講読Ⅱ(サンスクリット語)	2・3・4後	2			○								兼1
	相談援助演習Ⅰ	2後	2			○				1				
	相談援助演習Ⅱ	3前	2			○				1				
	相談援助演習Ⅲ	3前	2			○				1				
	相談援助演習Ⅳ	3後	2			○				1				
	相談援助演習Ⅴ	4後	2			○				1				
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	2前	2			○								兼1
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	2前	2			○								兼1
	相談援助の理論と方法Ⅰ	2後	2			○				1				
	相談援助の理論と方法Ⅱ	2後	2			○				1				
	相談援助の理論と方法Ⅲ	3前	2			○				1				
	相談援助の理論と方法Ⅳ	3後	2			○				1				
	相談援助実習指導Ⅰ	3前	2				○			1				
	相談援助実習指導Ⅱ	3後	2				○				1			
	相談援助実習指導Ⅲ	4後	2				○			1				
	相談援助実習	3・4前	2					○		2	1			
	福祉行財政と福祉計画	3後	2			○					1			
	社会保障Ⅰ	3前	2			○								兼1
	社会保障Ⅱ	3後	2			○								兼1
	福祉サービスの組織と経営	3前	2			○								兼1
	低所得者に対する支援と生活保護制度	3・4後	2			○				1				
	保健医療サービス	3・4後	2			○				1				
	権利擁護と成年後見制度	4後	2			○								兼1
人体の構造と機能及び疾病	3前	2			○				1					
就労支援サービス	3前	1			○				1					

教 育 課 程 等 の 概 要																
(文学部人間学科 通学課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専 門 科 目	(アド バ ン ス ト 科 目)	更生保護制度	3前	1		○				1						
		英語科教育法Ⅲ	3前・後	2		○				1						
		英語科教育法Ⅳ	3後	2		○				1						
		国語科教育法Ⅲ	3前	2		○								兼1		
		国語科教育法Ⅳ	3後	2		○								兼1		
		小計 (160科目)	—	0	316	0	—			35	9	2	0	0	兼30	—
	(教 員 免 許 状 登 録 者 に 係 る 科 目 履 修 可)	地理学Ⅰ	2前			2									兼1	
		地理学Ⅱ	2後			2									兼1	
		人文地理学	3・4 前・後			2									兼1	
		自然地理学	3・4 前・後			2									兼1	
		地誌学	3前・後			2									兼1	
		法学：教職	1後			2									兼1	
		政治学原論：教職	2後			4									兼1	
		心理学概論Ⅰ：教職	1前			2									兼1	
		心理学概論Ⅱ：教職	1後			2									兼1	
		小計 (9科目)	—	0	0	20	—			0	0	0	0	0	兼8	—
	専門科目小計 (364科目)		—	0	702	20	—			35	9	2	0	0	兼56	—
	合計 (635科目)		—	4	1112	20	—			35	9	2	2	0	兼310	—
	学位又は称号		学士 (文学)		学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
<p>■総合計124単位以上 ※共通科目、専門科目、自由選択科目の内訳は以下の通り。</p> <p>(1) 共通科目 26単位以上 ※以下を含むこと 創価コアプログラム (選択必修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入基礎科目 6単位以上 (必修4単位含む) ・大学科目 4単位以上 ・言語科目 (英語) 6単位以上 (他言語) 4単位以上 ・世界市民教育科目 4単位以上 <p>その他 (選択)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科学系科目 2単位以上 <p>(2) 専門科目 60単位以上 ※以下を含むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクトリー 6単位以上 (「人間学」2単位含む) ・ベーシック 26単位以上 ・アドヴァンスト 28単位以上 (必修「演習Ⅰ～Ⅳ」「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」計14単位含む) <p>(3) 自由選択 38単位 (1) 共通科目、(2) 専門科目の余剰修得分及び他学部他学科聴講の専門科目と特設課程科目を含む</p> <p>■履修科目の登録の上限：24単位 (各学期)</p>						1 学年の学期区分		2 学期								
						1 学期の授業期間		15週								
						1 時限の授業時間		90分								

授 業 科 目 の 概 要			
(文学部人間学科通信教育課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	大学 科目	<p>この科目は、創価大学通信教育部の学生として、是非とも学ばべき本学の建学の精神および創立者池田大作先生の思想や行動の軌跡について、学長、通信教育部長をはじめとする複数の講師陣によるオムニバス方式の授業を通して、深く学んでいく科目である。この科目では、通信教育部の学生が建学の精神と創立者の思想・哲学について、その学問的な根拠を学ぶとともに、その学習を通して、本学学生としてのアイデンティティを形成することを目的としている。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(31. 花見常幸/2回) 通信教育部の歴史と人間教育/1回、ゲストスピーカー/1回 創立者が『新・人間革命』「学光」の章において「通信教育部の開設は、伸一[*]が創価大学の設立を誓った時からの夢であった。民衆教育をめざす彼にとっては、そこに大きな眼目があったと いってよい」と述べられた、本学通信教育部の歴史と人間教育について、同書を中心教材として、ともに学んでいきたい。併せて、創立者が本学の創立を構想された経緯と、草創期より「学生のための大学」という本学の伝統を学生とともに築き上げてこられた歴史をゲストスピーカーが講演し、本学の建学の精神及び創立者の本学創立に対する思いを学んでいく。 ※創立者が自伝的な小説『新・人間革命』の中で自身の小説中の名前を山本伸一としている。</p> <p>(30. 馬場善久/1回) 人間教育と創価大学 創価大学の原点である「創価教育学体系」で牧口常三郎先生が求めた創価教育の眼目は「生命の尊厳に立脚した『創造的人間』の育成」である。本講では「創立の精神を学ぶ（通信教育部編）」などを教材にして人間教育と創価教育について共に考えてみたい。</p> <p>(32. 神立孝一/1回) 創価大学設立前史・創立者の大学設立構想 創価大学の開学に至るまでの道程を、牧口先生、戸田先生、そして創立者・池田先生の人生を通じて振り返ってみたいと思います。その上で、創価教育と創価大学創立の意義を考えていく。</p> <p>(33. 鈴木将史/1回) 地球市民教育と教育者サミット 1996年6月のアメリカ・コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジにおける創立者講演「『地球市民教育』への一考察」の中で、創立者は「教育者のサミット」を提言された。「地球市民教育」に対する創立者の哲学を学び、創価教育の果たす役割を確認するとともに、現代の教育における展開について、ともに考えたい。</p> <p>(②. 山岡政紀/1回) 人間主義の実践としての人間教育 かつて務台理作が著書『現代のヒューマニズム』（岩波新書）で提唱した第三のヒューマニズムとは、植民地主義や奴隷制度といった現実の人間疎外に敢然と立ち向かう行動するヒューマニズムであった。マハトマ・ガンジー、キング牧師らと並んで現代におけるその実践者である池田大作先生が教育機関を設立された意義は大きい。池田先生が本学学生に接するあり方は「人間主義」を体現している。そのことを通して「人間教育」の規範と本質を探究する。</p>	オムニバス方式

共通科目	大学科目	人間教育論 (続き)	<p>人間教育論 (続き)</p> <p>(103. 栗原淑江／1回) 第4回入学式創立者講演「創造的生命の開花を」に学ぶ 海外諸大学訪問直後に行われたこの講演で、創立者は新入生に世界的視野に立つ人材に育つよう呼びかけている。そして「今、私の打っている“点”と“点”を“線”で結び、更にそれを壮大な立体とした世界の平和像をつくりあげていってほしい」と期待をよせている。このご提言にいかに応えていくかについて共々に考察していきたい。</p> <p>(36. 寺西宏友／1回) 創立者の平和行動の原点 創立者は創価大学の開学と時を同じくして、トインビー博士との対談を行われ、さらに対談中に博士から託された平和のための文明間対話の継続をされてきた。とくに1974年の初の訪ソと訪中を含め、平和の為に積極的な民間外交をされてきた。この創立者の行動と、創価大学の果たすべき役割について考察したい。</p> <p>(4. 田中亮平／1回) 創立者の人間主義と人間教育 2003年3月の創立者の「人間ゲート」と題する特別文化講演会は、ゲートの人格形成の過程をたどりながら、創立者の人間主義が展開された講義であった。それは創立者の青年期からの思索と行動に裏付けられたゲート論であった。その神髄を学びあいたい。</p> <p>(1. 浅山龍一／1回) 地球市民育成と平和構築—文学の役割 創価大学の建学の精神は人間教育、新文化建設、平和構築である。この指針を体現するのが地球市民であろう。創立者の「地球市民育成」を訴えるスピーチを読むにつけ、文学が果たす役割の重要性を実感するものである。</p> <p>(7. 高橋強／1回) 創立者と日中文化交流の架け橋 創立者は「文化交流」は人間の精神に「永遠」「普遍」への飛翔の翼を与え、「教育交流」は人と人とのうちに「平等性」「共感」の絆を育むといわれています。このような視点に立ち、創立者が促進されてきた日中交流を振り返りながら21世紀の新たな交流を考えていきたい。</p> <p>(37. 江口満／1回) ロシア・モスクワ大学での創立者講演「東西文化交流の新しい道」に学ぶ 創立者のモスクワ大学での講演で語られているロシアの精神風土に目を向けつつ、「チェロベーク (人間)」に包含される意味を探りたい。また「精神のシルクロード」の建設の展望について、創立者の御構想を学びあいたい。</p> <p>(69. 加納直幸／3回) 創立者とネルソン・マンデラ氏との対談から学ぶ/1回、メディア授業振り返りレポート作成/1回、メディア授業およびレポートに関するディスカッション、質疑応答/1回 約28年の獄中生活にあっても、人類最醜の人種隔離政策 (アパルトヘイト) と闘い続け、勝利したマンデラ氏と創立者の最初の出会いは1990年であった。このお二人の出会いの意義と、共に闘いを挑み続けているものとは何かについて考察したい。</p>	
------	------	---------------	--	--

共通科目	大学科目	<p>「創価教育」とは何か、ということをもみんなで考えてみよう。これがこの授業の最大のテーマです。担当者も一人ではなく、「創価教育研究所」の教員が交代で講義をいたします。考える材料は、「創価教育学」の提唱者であり「創価教育学の父」といわれる牧口常三郎先生の御生涯から始まり、それを受け継いだ戸田城聖先生、そして創立者池田大作先生の思想と実践です。さらに、現在「創価教育の現場」である創価大学の歴史については、一つひとつ丁寧に見ていきたいと思っています。そして、創立者池田先生の示された教育論を通じて「創価教育」について考えていきたいと思っています。「創価教育」とは何かということをも、自分なりにしっかりと説明ができるようになっていただくことが最大の目標です。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(32. 神立孝一/5回) 牧口常三郎の生涯、戸田城聖の生涯、池田大作の生涯 まず、牧口常三郎の教育活動を、その著書『創価教育学体系』執筆に至った経緯を通して考察する。その後、牧口の教育理念を、教育者・実業家として発展させた戸田城聖の生涯を検討した後、牧口・戸田の教育理念をもとに創価一貫教育を作り上げた池田大作の生涯を考察する。</p> <p>(32. 神立孝一・34. 勘坂純市/1回) メディア授業の振り返りレポート</p> <p>(54. 牛田伸一・23. 伊藤貴雄・133. 岩木勇作/3回) 牧口常三郎の教育思想 小学校の教員として牧口が実践した教育活動、さらには『創価教育学体系』で展開される牧口の教育思想を、J. デューイやペスタロッチの教育思想と対比させながら考察する。さらに、その教育理念が、今日どのような実践的な意義があるかも検討していく。また、初回の授業で牧口常三郎の教育思想、メディア授業および6回目で作成したレポートに関するディスカッション、質疑応答を行う。</p> <p>(34. 勘坂純市・35. 中山雅司・29. 蝶名林亮/3回) 池田大作の平和思想 ハーバード大学をはじめとした海外諸大学での池田の講演、また、トインビーとの対談『21世紀への対話』やゴルバチョフとの対談『20世紀の精神の教訓』、ロートブラット対談の『地球平和への探究』、さらには、毎年SGIの日（1月26日）に発表される「平和提言」などを、その時代背景と共に考察することによって、池田の平和思想の特徴とその可能性を検討する。</p> <p>(58. 富岡比呂子・73. 坂口貴弘/3回) 池田大作の教育思想 池田大作が、牧口の「創価教育学説」を発展させて、どのような理念のもとに創価一貫教育を作り上げたか、またその教育理念にはどのような特徴があるかを、彼が、創価大学、創価高校・中学・小学校で行った指導や実践、さらには、池田の「教育提言」等もとに考察する。</p>	オムニバス方式
------	------	--	---------

共通科目	大学科目	<p>本講義は自立した学習者を目指してもらう為に、まず履修の方法、学習時間の工夫および学習サポート体制の活用の仕方について述べます。その上で、通教生が学習するうえで柱となるレポート作成に重点を置き、その取り組み方について講義をします。具体的には「テキストをいかに読むか」、「資料をいかに探すか」、「レポートをいかに書くか」について述べた後、レポートの評価項目の視点から「より良いレポートにするため」の講義をします。本講義は実践も重視しており、「文章を書くための体験学習」を実施します。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7. 高橋強・38. 坂本幹雄・39. 劉継生・55. 有里典三・56. 山本忠行・59. 堂前豊・60. 山崎勝・69. 加納直幸・71. 平井康章・74. 黄國光・75. 開沼正／8回)</p> <p>まず第1章「自立学習のために」で卒業までの履修の方法をしっかりと学びます。その次にレポートの書き方を第2章「テキストをいかに読むか」、第4章「レポートをいかに書くか」を中心に講義をし、それぞれ「練習問題」をやりながら確認します。その際、アクティブラーニング方式を導入して学生間の討論を通し深めます。最後に第6、第7章「文章を書くための体験学習」を要約文作成中心に行います。</p> <p>(74. 黄國光／7回)</p> <p>レポートを作成する際、「出題者がどのような解答を要求しているのか」「いかなる条件の下で、どのようなタイプの考察をしなければならないのか」「課題の対象範囲はどこか」などの情報を確認し、論点を明確にすることを学びます。補助教材の『レポート課題解説』にレポートに関する重要な内容が載っていますので参考にすることも大切です。</p>	オムニバス方式
言語科目 (英語)	英語ⅠA	<p>先に「英語ⅠB」(スクーリング)を受講することを勧める。事前学習とスクーリングで英文法を学び、語彙やイディオムを増やし、アメリカン・ルネサンスの思想をつかんだ上で、「英語ⅠA」で英語力を高め、レポート課題や科目試験に取り組んでほしい。「英語ⅠA」で扱う『ワンダーブック』はホーソンが子供向けに書いた作品でアメリカの子供たちに初めて紹介されたギリシャ神話。それも、ホーソンが「いくらか脚色した」(前書き)刺激的な作品で、彼の思想(ピューリタニズムと超絶思想)が滲み出たものとなっている。</p>	
英語ⅠB	英語ⅠB	<p>事前学習においては、英文法の基礎とアメリカン・ルネサンスの概要を学ぶ。授業では、エマソン、ソローと後継者オルコットの代表作品を取り上げる。トルストイ、ガンディー、キングの平和思想、デューイのプラグマティズム(実用主義哲学)——すべて、人間性を変革しようとする運動——へと受け継がれる、その原点ともいべきアメリカ思想を原語(=英語)で学ぶ。著者たちの話の進め方、語調を味わいながら深遠な超絶主義に浸り、そこに生まれた自立心の強い子供を中心とした児童文学の世界を楽しみたい。英文法を確認しながら、語彙やイディオムを増やしたい。</p>	
英語ⅡA	英語ⅡA	<p>言語の技能として、読む、書く、聞く、話す、の4つがあり、科目試験とレポート課題を通して、「読む」ことを中心に学ぶ。この「読む」ことが他の3つの技能の基礎にもなっている。これにより、英語の運用能力をつけ、またその力をさらに洗練していくことを目標とする。教科書は、英語の文化や習慣、現代事情についての内容が多く、【注】を参考に辞書を引きじつくりと読んでいくことが求められる。科目試験、レポート課題ともその英文の内容をきちんと理解することが重要である。その上でそれを日本語で表現していくのである。</p>	

共通科目	言語科目 (英語)	英語ⅡB	英語の運用能力をつけ、またその力をさらに洗練していくことを目標とする。言語の技能として、読む、書く、聞く、話す、の4つがあり、このうちの「読む」ことが中心になるが、これが他の3つの技能の基礎にもなっている。スクーリングに先立ち学生にはメディア学習が求められる。スクーリングでは、共通予習箇所が設定されている。現代の比較的平易な英語を、辞書を引き音読しながら読んでいく。英語の文化や習慣、現代事情についてもできるだけ触れていく予定である。	
	言語科目 (第2外国語)	英会話Ⅰ	英会話Ⅰでは、言語コミュニケーションとリスニングスキルの基礎力を向上することに重点を置きます。教科書は自然な対話形式に基づいたユニットで積極的に学生が参加し、自身の生活や、興味、意見などを共有できるようにします。受講者は本物の英語に触れることができます。授業評価は、積極的な参加に焦点を当てます。授業に積極的にに関わり、参加することが必須です。勉強は大変ですが、雰囲気はリラックスして楽しいものです。勉強に専念すれば、リスニングとコミュニケーションスキルが向上します。	
		英会話Ⅱ	英会話Ⅱでは、英会話Ⅰでの基礎を学んだ上で、更なる言語コミュニケーションとリスニングスキルの向上に重点を置きます。教科書はトピックに基づいた会話形式のものです。自然な対話形式に基づいたユニットで積極的に学生が参加し、自身の生活や、興味、意見などを発信できるようにします。受講者は本物の英語に触れることができます。授業評価は、積極的な参加に焦点を当てます。授業に積極的にに関わり、参加することが必須です。勉強は大変ですが、雰囲気はリラックスして楽しいものです。勉強に専念すれば、リスニングとコミュニケーションスキルが向上します。	
		ドイツ語A	ドイツ語の基礎的な文法を習得し、日常的な話題についての簡単な談話を理解できるようになることを目指します。教科書がありますが、ドイツ語のアルファベットから始めて、簡単なあいさつを学び、次第に現在時称の様々な表現へと移っていきます。最後に過去の出来事を伝えるところまで進んで終わります。さらに中級への橋渡しとして文法の補足を行います。テキスト第8課までの範囲で学習報告レポートを、第9課から最後の12課までと、文法補足の部分で、2回目の学習報告レポートを提出し、理解を確認します。	
		ドイツ語B	ドイツ語の基礎的な文法を習得し、日常的な話題についての簡単な談話を理解できるようになることを目指します。ドイツ語のアルファベットから始めて、簡単なあいさつを学び、次第に現在時称の様々な表現へと移り、過去の出来事を伝えるところまで進みます。その上で文法の補足を行います。テキストでは第5課までをWEBでのメディア授業で学習していただき、第6課から最後の12課までと、文法補足の部分を面接授業で学習していただきます。	
		フランス語A	欧州言語基準(A1)に合わせて、ここでは「文法」項目の学習に力をいれていく。文法項目はL7の複合過去形までを学習します。文法練習問題によって、学習項目の定着を図ります。このクラスでは文法項目を中心に学習し、複母音などの特殊な発音を正しく読めるようにします。発音規則、文法規則をしっかりと覚えることを目標として学びます。	

共通科目	言語科目 (第2外国語)	フランス語B	<p>欧州言語基準枠 (A1)にそって、授業は行われる。L1～L4はメディア授業として行います。授業ではL7の複合過去形まで学びます。ことに、つぎの項目が明確に言える、書けるようにします。1. 日常的表現と基本的な言い回し。2. 自己紹介ができる。3. 何処に住んでいるか、どこ出身か、何が好きかなどの応答ができる。4. 相手がゆっくり、そしてはっきりと話してくれると、簡単なやりとりができる。などの具体的な勉学実績が出せるようにするために、授業中に行うプラクティカルな口頭並びに筆記を通して学習します。</p>	
	中国語I	<p>初めて中国語を学ぶ人のための授業です。ことばの学習は発音が基礎です。教科書では発音の習得のためにくわしい説明を行います。最初にしっかりと発音を身につけられるように配慮しました。中国語を書き表す文字は漢字ですが、漢字は表音文字ではないので、発音の表記には中国語用のローマ字表記を用います。この中国語ローマ字表記法は世界で広く用いられているものです。まずこの表記法に慣れ、正しい発音方法を学べるように授業をすすめます。日本語の発音との比較を通して中国語の発音の特徴を学べるようにも説明します。</p>		
	中国語II	<p>会話はコミュニケーションにおけるルールに従って行われます。このルールは日本語も中国語も基本的には共通する部分が多いのですが、違いを知ることも大切です。あいさつの仕方や電話の掛け方などにそうした違いが見やすい形で現れます。この授業では、特にコミュニケーションにおけるルールを、手紙文、説明文、それにやさしい物語を学びながら解説していきます。なお会話といっても「文」から成り立っていますので、「文」のルール即ち文法事項も深めていきます。</p>		
	スペイン語A	<p>スペイン語の文章を日本語に和訳するといった観点からではなく、比較的平易な日本語の文章を、どのような点に注意してスペイン語にすべきかを、教科書「演習編」を中心に学習します。スペイン語Aで取り上げる基本動詞は、ser, estar, haber, tenerの4つで、現在形の活用のみです。したがって、これ以外の動詞や過去時制を用いた表現などがテキストで使用されることはありません。日常の会話は、「持っています」「～です」「～があります」などの表現が中心となっていることを強調したいと思います。</p>		
	スペイン語B	<p>スクーリングは受講者のレベルに合わせて講義を実施します。 1. 文字と子音字の特徴 2. 母音とアクセント 3. 名詞の性と数 4. 定冠詞と不定冠詞 5. 品質形容詞の名詞対応形 6. 人称主語と「である」動詞SER 7. 指示形容詞と所有形容詞、主語人称代名詞と自動詞SER 8. 「である」「いる」動詞SERとSTAR</p>		
	ハングルI	<p>ハングルは語順や助詞、漢字語など、日本人にとって学びやすい言語だと言われます。講義では教科書の「文字と発音編」と「会話編」5課まで学習します。「会話編」では「単語トレーニング」を練習し、次に「学習ポイント」で文型を学び、おきかえ練習や本文、チャレンジなどで実践的に反復練習をします。この授業の到達目標として、①文字をみれば発音できる、音をきけば文字が書けるようにする。②初級段階の文型と語彙を習得する、③学習項目の範囲でコミュニケーションが取れるようにすることを目指しています。</p>		

共通科目	言語科目 (第2外国語)	ハングルⅡ	この講義では教科書「会話編」6課から12課までを学びます。学習に際してはDVDや教科書の付録CDを活用しながら、予習・復習が円滑に進められるよう工夫しています。学習範囲はまず動詞・形容詞の基本形を学習し、次に否定形、希望を表す表現、過去形ほかさまざまな活用を学習します。到達目標は、①動詞・形容詞をもとに多様な活用形を理解する。②関連する語彙を学び使えるようにする。③学習した文型・語彙を使って、食事や買い物、旅行など実践的な場面でコミュニケーションが取れることへの達成にあります。	
	(その他) 体育科目	体育講義B	生涯にわたって健康を維持・増進するための、「生涯健康論」を学ぶ。高度な科学技術の成果が、生活の隅々まで浸透している現代社会であるが、科学技術に依存し過ぎた生活が、私たちの健康を害する場合もある。人間にとって心身にわたる「健康」は、依然として最重要の課題であり、自分の心身と深く向き合う時間を取りたい。「健康の本質」「人体の生理」「神経系の働き」「心とからだ」「健康のライフスキル」などの基礎知識を確認し、「健康な身体」と、ストレスや悩みに負けない「強くて柔軟な心」をつくる方法について考察する。	
		体育講義C	本講義は、食生活と健康を学ぶにあたっての基本的認識（「平均寿命の推移と死因」「生体成分と栄養素およびエネルギー代謝」）をふまえ、特に、食生活と健康（「日本人の食事摂取基準」「日常の食生活を考える」という観点から、現代に生きる私たちにとって“よりよい食生活のあり方”について考えます。また、食事と運動（身体活動）は、エネルギー収支の面から考えると車の両輪とも考えられることから、「体脂肪に関する話題」や「日常生活と身体活動」についても紹介します。	
	(人文・芸術・思想科目)	文学A	日本文学の流れを知り、その特質を踏まえた上で日本文学の研究についての事項を学びます。また、いくつかの文学作品に触れ、その表現を考察した上で、読むこと、調べること、考えること、書くことの4つの項目について実践し、文学に関わるコミュニケーション全般を体験します。一般的な「正解」を求めめるのではなく、「日本文学とはなにか」「作品分析はどのように行うのか」「自分の考えをどのようにして構築していくのか」との思索を習得することを目標とします。	
		文学B	文学作品の研究においては、その作品に何が書かれてあるかと同じように、いかに書かれてあるかという技法の側面に目を向けることが大切です。本科目は、文芸批評理論の概説を学びながら、文学研究の方法を学ぶことが目的です。ロシア・フォルマリズム、構造主義、記号論、新批評、受容理論、精神分析批評、脱構築、ポスト・コロニアリズムなどの理論を学び、自らが親しんだ作品の分析に応用することが到達目標となる。最終的には、それぞれの作品のどこに文学性を見出すかが「鍵」となってきます。	
		哲学	まずは、「難しい」という哲学に対するイメージをできるだけ払拭することから始める。そこで哲学における諸問題を日常生活との連関のなかで取り扱い、わかりやすく講義することを目的とする。ふだんの生活のなかで「当たり前」だと思っていることが、実はそうではないことに気づくことによって生まれる問いが哲学の世界に入る第一歩であることを述べる。さらにその具体例として、時間、私の存在、死、生命等をあげ、それぞれに関して学生と一っしょに考えていく方法でアクティブ・ラーニングの一環としたい。	
		音楽	本講座では、音楽へのかかわり方としての最も基本的なことを習得することを目標とし、より広く自分の音楽への思いを実現していけるような音楽の基本の理論知識や教養を深めていくことを目指していきます。具体的な内容は、多くの方々の音楽への関心や趣味が広がっていきけるような一般教養としての音楽史(西洋音楽史と日本の音楽史)と、楽典の音程や音名、音階、調、和音、そして音楽を構成していくための基本的な和声学の3つの領域の内容を勉強していきます。	

共通科目	人文・芸術・思想科目 (人文分野科目)	美術	現代の美術は学校、美術館などの施設における教育をはじめ、その方法も手段も多様化しているが、美術作品に触れることは、人の心に気づくことでもある。この授業では日本と世界の美術作品の考え方に触れ、鑑賞と表現の両面から学んでいく。まず歴史上における美術作品が生まれた時代背景や作者について学び、美術作品を自身の言葉で語ることを学ぶ。そして自身の目で見たものを心で感じ取り、自身の手を使って表現することを経験する。これらの学びを通して、美術作品を享受する自分の心を自覚し、同時に他者の心に気づくことをねらいとする。	
		倫理学	倫理学とは一言でいうならば人間学といえます。「人間」が本来、世間を意味する言葉であるように、人間は孤立してではなく、つねに他の物や人とともに生活をしています。そこで関係的に生きる私(私たち)のあり方や、この関係の中でいかに価値を生みだしていくかということが倫理学のテーマになります。倫理学の対象は広いのですが、私たち自身のものの見方や考え方を深めることにより、世界も広がり豊かさをもちます。本授業ではこうした倫理的な見方・考え方を身につけることが目標です。	
		歴史	<p>教養としての日本史の基礎的知識を押さえていく授業とする。スクーリング学習の場合について、1回目から5回目は、時代区分に従って、専門とする教員によるメディア授業を受講する。6回目から14回目の対面授業は、担当者により重点部分が異なる。担当教員のメディア授業を十分に理解したうえで、スクーリングを受講してほしい。テキスト学習の場合には、シラバスの学習内容を参考にしながら学習を進める。4つの時代の大区分からさらに細分化された時代を掘り下げ、全時代に及ぶテーマ別学習を取り入れながら進めてほしい。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(75.開沼正・14.坂井孝一・131.小林正博/15回) スクーリングの内容は担当者の専門分野を中心としながら講義を行なっていく。担当者の専門とする時代区分は以下のとおりである。古代・中世(小林正博)、中世(坂井孝一)、近世(開沼正)。</p> <p>(75.開沼正/15回) レポート課題については、時代区分(古代・中世・近世・近代)ごとに出題している。テキスト学習はもちろん、参考文献を活用してレポート作成をしてほしい。</p>	オムニバス方式
社会・分文化科目 (社会分野科目)	法学概説	この授業は、法学について基礎的な知識を得ることを目的として、次の項目を中心に学ぶ。1. 法と社会規範、2. 法と道徳の差異、3. 法と裁判、4. 裁判の基準(法源)、5. 法の解釈、6. 憲法の基本原理、7. 基本的人権(法の下での平等、信教の自由など)、8. 犯罪と法(刑法の機能、犯罪の成立要件、刑事手続)、9. 家族生活と法(家族法、婚姻、離婚、親子、相続)、10. 財産関係と法(契約、保証、不法行為としての損害賠償)、11. 国際社会と法・国際法		
	日本国憲法	本授業では、日本国憲法についての基本を学びます。まず、憲法とは何か、その目的を理解し、日本における憲法の歴史を概観します。そして、基本的人権尊重主義、国民主権主義、平和主義という日本国憲法の基本原理を考察します。とりわけ、基本的人権の尊重については、総論・各論に分け、詳細に学修します。その後、統治機構について理解を深めます。中央の機構として国会・内閣・裁判所にとどまらず、地方自治に関する問題も学んでいきます。授業では、単に知識を習得するだけでなく、「考える力」を付ける工夫をしていきます。		

共通科目 (社会・文化・生活科目)	経済学	<p>経済学の説く合理的選択理論をはじめとする行動原理と経済社会全体の循環システム、その相互作用の基礎を理解し、経済学の視点からさまざまな問題を考察できるようになる。この到達目標を達成するためにミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論を修得する。具体的にはミクロ経済学は市場均衡論、弾力性分析、消費者行動の理論、生産者行動の理論、余剰分析、および不完全競争論等を学習する。マクロ経済学は国民所得統計、国民所得決定モデル、金融理論、および国際経済論等を学習する。なお実践科学としての経済学は政策科学であるから、各項目において政策論議を含む。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(38. 坂本幹雄・59. 堂前豊・69. 加納直幸/15回) まず経済学全体の総論、ミクロの市場の需給分析、マクロ経済データの基礎を講義する。次にミクロ経済学の弾力性分析、余剰分析、不完全競争市場の構造および政府の経済的機能について講義する。</p> <p>(59. 堂前豊/7回) レポート課題は前半の2課題がミクロ経済学、後半の2課題がマクロ経済学から出題される。レポート課題の前半のミクロ経済学の1課題と後半のマクロ経済学の1課題を出題・解説する。ミクロ経済学は需給分析、マクロ経済学はGDP統計に関する単元とする。</p> <p>(69. 加納直幸/8回) レポート課題は前半の2課題がミクロ経済学、後半の2課題がマクロ経済学から出題される。レポート課題の前半のミクロ経済学の1課題と後半のマクロ経済学の1課題を出題・解説する。ミクロ経済学は弾力性分析・余剰分析等のミクロ経済モデル、マクロ経済学は国民所得決定モデルを中心とした単元とする。</p>	オムニバス方式
	経営学入門	<p>経営学は、現実に活動している組織を研究対象とする学問である。本講義では「トップが語る現代経営」の講義のDVDビデオを用いて現場の経営者のリーダーシップについて深く学習します。経営で重要とされる人間主義の経営理念をいかにして体現し組織のリーダーとして経営に関わっているか、これを経営者の主張と対比させながら学習します。これから社会で活躍するために必要となる人間学（経営哲学）を創価の経営や人間主義という価値体系から学習します。</p>	
	心理学	<p>本講義を通して、人間生活や人間の存在への理解を深め、心理学に関心を持つことを目標とする。本講義では、「認知の世界～ゲシュタルト心理学」、「人とのつきあい方～パーソナルスペース」、「人間と学習～短期記憶と長期記憶」、「人間と性格～性格の診断法」、「人生の目標～達成動機」、「心のメカニズム～精神分析理論」、「人間の存在価値～マズローと自己実現」、「人間関係を育む～交流分析理論」等の内容を中心に、講義を進める。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(49. 鈎治雄・126. 李和貞・127. 山口勝己/15回) 人間行動の心理について、生活に即した具体的な事例を紹介しながら、教員と学生との双方向の講義をおこなっていく予定である。</p> <p>(49. 鈎治雄/15回) ゲシュタルト理論、マズロー理論、精神分析理論、及びメンタルヘルスについて学習課題が用意されているので、テキスト及び参考図書をふまえて、心理学の基礎を体得し、実りある学習を期待したい。</p>	オムニバス方式

共通科目	(社会・文化・分野科目) 生活科目	社会学Ⅰ	社会学の面白さの一つは「非自明性の発見」にあります。本講義では、「意図せざる行為の結果」が生じる代表的パターン、すなわち①主観的意味と行為の客観的結果のズレ、②予言の自己成就、③社会的ジレンマを取り上げ、それらを特徴づけている脱常識的なメカニズムについて説明します。素材として扱うのは、犯罪の潜在的機能、官僚制の逆機能、デマの伝播過程、偏見と差別、地球環境問題、アウトサイダー、ジェンダーです。本講義では、社会現象の複雑な意味秩序を多角的に読み解く能力を習得することを目標にしています。	
		社会学Ⅱ	本講義では、量的社会調査の代表である「調査票調査」の全過程を学習します。当該調査が正しく行われ学術的な価値をもった調査になるためには、量的調査の全段階、すなわち①調査テーマと調査項目の決定、②調査票の作成、③調査対象の確定(サンプリング)、④調査の実行、⑤データの集計と分析、⑥報告書の作成の各段階でどんな科学的手順を踏み、どんな点に留意しなければならないかを具体的に解説します。本講義では、調査リテラシーの習得と量的社会調査全般を計画し実行できる専門性を養うことを目標にしています。	
		政治学	政治は私達の生活に大きな影響を与えます。また、国民主権であるということは、私達国民が政治の主役であるということの意味します。だからこそ、私達はこの政治をしっかりと監視するために、政治をきちんと見る力をつけなければならないのです。ここに政治学を学ぶ意味があります。そこで、当授業では、政治を理解するために必要なデモクラシーや権力、国家といった政治学の基本的な概念や知識を習得するとともに、自分の頭で政治をしっかりと考え、客観的かつトータルに政治を認識できる力を身につけることを目標とします。	
		教育学	人間と教育、家庭教育や学校教育に関心のある学生に受講を勧め、本講義を通して、教育の目的や意義、役割について理解を深めることを目標とする。本講義では、「現代社会と教育～教育の目的と意義」「世界に目を向ける～各国の教育事情」、「人間の成長と発達～乳幼児期、児童期を中心に」、「意欲を育む接し方～原因帰属理論に学ぶ」、「教育とかかわり～教育における称賛と叱責」、「家庭教育とは～親の役割を考える」、「子どもの幸福と教育～創価教育学に学ぶ」等の内容を中心に講義を進める。	

共通科目	(自然・分野科目・情報科目)	<p>一般教養としての「数学」が目標です。まず第12章「学習指導書」を読み小学校から高校までの算数・数学の理解を確認します。各章の内容は次の通りです。第1章、第2章は、数の計算と式の計算、第3章では関数とグラフを学びます。第4章の数列の極限、関数の極限は、第5章で学ぶ微分法の準備です。第5章では、微分法概念、導関数の定義と公式の活用を学びます。第6章の積分法、第7章のベクトル、第8章の行列と行列式、第9章の確率、第10章の図形問題、および第11章の文章問題は選択項目として収録しました。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(38. 坂本幹雄・59. 堂前豊／15回) 1～5回目(メディア学習：学習指導書)。6回目：数の計算、7回目：式の計算、8回目：関数とグラフ、9回目：数列と極限值、10～12回目：微分法、13回目：行列、14回目：文章問題の解き方、15回目：スクーリングの復習</p> <p>(38. 坂本幹雄／15回) 16～23回目：レポート課題1の学習。課題文より不等式を作成し、一次関数のグラフ表示、連立不等式を解き2直線の交点の座標を求める。24～30回目：レポート課題2の学習。課題文より式を作成し極大値を求めるために、微分し関数の概要を調べる。</p>	オムニバス方式
		<p>統計学は、データから諸現象に関する情報を取り出すための科学的方法とその理論の体系です。この科目の目標は、統計学の考え方と統計分析の基礎を修得することです。例えば、新聞やテレビで報道される世論調査の結果について統計的な意味を説明できるようにすることです。授業では、様々なグラフの特徴と応用、基礎統計量、基礎的な確率の概念と確率の計算、二項分布と正規分布による分析方法、推定と検定の考え方と実践について学びます。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(50. 浅井学・51. 杉本一郎・65. 中田大悟・67. 碓井健寛・53. 天谷永／15回) メディア授業では、基礎統計量と様々なグラフの特徴について学びます。面接授業では、メディア授業で学んだ内容を発展させて、基礎的な確率の概念と確率の計算、二項分布と正規分布による分析方法、推定と検定の考え方を学びます。</p> <p>(30. 馬場善久／15回) レポートでは、受講者にとって関心のあるデータを使って統計分析を行います。メディア授業や面接授業で学んだ内容を、それぞれ現実に問題に応用していけるようになることがその目的です。</p>	オムニバス方式
		<p>本科目では、文科系と理科系を問わず全ての学生が学ぶべき情報の仕組みを総合的に学修します。私たちは情報を活かして思考し、環境を認識し、行動します。情報社会では、人や物の代わりに情報を移動させることにより、空間的・時間的制約が取り払えます。情報は思考の素材、コンピュータは万能機械、インターネットは外部脳、システムは問題解決の手法です。情報社会での最適行動のためには、様々な情報の仕組みの正しい理解が重要です。そのためには、技術のみではなく、哲学・倫理・認知・心理・法律なども視座にする必要があります。</p>	

共通科目	(自然・数理・分野科目) 情報科目	生命科学	生命科学(ライフサイエンス)は、生命現象全般を対象として、その仕組みを明らかにし、人々の健康や生活、暮らしに役立つ広範な学問領域を指す。本講義では、生物学、化学、物理学などの基礎科学と、医学、薬理学、脳科学、工学などの応用科学の各分野を横断して、生命現象の仕組みについて科学史を紐解きながら学ぶ。細胞から身体・脳・心の世界まで、ミクロからマクロまで視点を往復させて私達が直面する問題まで考えたい。最終的には、生命現象の全体像を統合的に理解し、自他共の健康や人生に役立つ実学として生命科学を学ぶ。	
		コンピュータ・リテラシー	生活のあらゆる場面で「情報」の役割が重要になり、文部科学省は①情報活用の実践力②情報の科学的な理解③情報社会に参画する態度の3点を情報教育の目標としています。本講義の目標は課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力(情報活用の実践力)の習得です。具体的には、インターネットを通じて資料を集め、表計算ソフトでデータを分析し、ワープロソフトを使ってレポートを作成する情報スキルを身につけます。	
		プログラミング	生活のあらゆる場面で「情報」の役割が重要になり、文部科学省は①情報活用の実践力②情報の科学的な理解③情報社会に参画する態度の3点を情報教育の目標としています。本講義では主として「情報活用の実践力」について学習します。これは、課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力とされています。具体的には問題を解決するための手順を考え、プログラミング言語を使ってプログラムを作成し実行します。	
		環境科学	地球温暖化など環境問題の解決が国際的な共通の目標になっている一方、特に日本では3.11の震災以降、資源循環型社会への転換が喫緊の課題になっている。しかしながら、自分の課題としての実感は乏しく、どこか他人事、科学・技術による解決を期待しているのではないだろうか。確かに科学・技術の進歩は必須のものであるが、科学・技術だけで解決できる問題ではない。本講義では、まず環境問題の実態と課題について把握し理解する。その上で、社会情勢や価値観なども取り上げ、できるだけ生活と関連のある問題として考えたい。	
	(その他) 人権・世界科目	総合科目A	【目標】人権とは何かを理解し、豊かな人権感覚をもって、職場、地域社会、家庭において活動できるようになることを目標とします。 【授業計画】世界と日本における人権についての歴史を学び、どのような人権がどのような試練を経て認識され、獲得されてきたかを学びます。また、世界人権宣言、国際人権規約、日本国憲法などで保障される人権の内容を学ぶと共に、テーマ別に、具体的な事例や判例を通して、人権について考えます。また、本学創立者の人権に関するスピーチや対談の内容を通じて、人権についての考え方を学びます。	
		平和学入門	生命の尊厳を否定する現代文明の矛盾の象徴としての核兵器の問題をめぐるテキストの議論を学ぶことで、平和学の中心的な課題である、戦争の防止/戦争の規制への取り組み、核兵器廃止への取り組み、暴力解消への取り組みを理解し、以下のレベルに到達することを目指します。(1)核兵器廃絶をめざすことの意義と具体的な廃絶への取り組みを説明できる。(2)核兵器以外の現代世界における脅威とは何かを説明することができる。(3)現代世界における脅威にどう取り組むべきかを論ずることができる。	

共通科目	(その他) 平和・人権・世界科目	共通総合演習	「共通総合演習（ゼミ）」とは、通常の講義形式の授業ではなく、教員と少人数の学生とが特定のテーマについて対面式で討論を行い、掘り下げる授業のことである。テーマは教員によって異なるが、その学問分野の導入的内容を扱う。一つのテーマのもと、それに関する諸問題について学生が自主的に学習し、参加者全員で楽しく討議を積み重ねながら理解を深める。そして、この授業では学生に主体的な参加を促すことを通して、アクティブラーニングを実践する場としていきたい。	
		総合科目B	本科目の目標は、女性学全般についての知識と理解を深め、さらに実践に生かせる力を身につけることです。具体的には、まず女性学の歴史をひもとき、その成立と課題について考察し、女性をめぐる諸問題の根底に横たわる本質を理解していただきたいと思います。次に、現代社会の諸領域——家庭、職場、教育、高齢化、メディア、暴力、生殖医療など——を取り上げ、問題点を明らかにします。具体的な諸問題を通して、現状を理解し、問題解決に向けての考察ができる能力を身につけていただきたいと思います。	
		地域研究A	地域研究Aのテーマは「東南アジアの近現代史」です。19世紀半ばから現在に至るほぼ東南アジア全域の近現代史を研究します。授業の主な内容は以下の通りです。(1)序論：オランダ・イギリス・フランスの植民地支配の拡大、(2)東南アジアのナショナリズム、(3)国民国家の誕生、(4)国内支配の強化（強権政治の確立）、(5)緑の革命、(6)1980年以降の東南アジア、などです。近代史を学ぶことによって、今日の東南アジアがどのような経緯を経て形成されたのかを研究します。	
		地域研究B	中国は今日飛躍的發展を遂げ、経済大国、政治大国としての地位を確立しつつある。この大發展のスタートは、80年代の「改革開放」政策である。以来、この30年余りの劇的な変化は、今日的な様々な社会現象を生み出している。 一方、中国社会を、その社会たらしめる基本的要素、即ち広大な国土、巨大な人口、悠久の歴史、そしてその下で育まれてきた諸文化の上にその諸現象があることも事実である。 以上の観点に立って中国を、その基本的要素、伝統的要素から、更に改革開放政策の要素から立体的に講義してゆく。	
		地域研究C	21世紀に入っても、世界における貧困と紛争そして疾病の中心地域とされるのがアフリカである。なぜそうなったのかについて歴史の観点から見つめることが重要である。とくに植民地時代以降のアフリカ各国の動向が、現在の姿を決定づけることになった。さらに、日本にとってのアフリカとはどのような位置づけになってくるのであろうか。単に援助の対象としてのアフリカから日本の国際戦略の一環としてアフリカの重要性を考察したい。講義では可能な限り最新のデータを使用したい。	

専門科目	イントロダクトリー科目	<p>科学技術（テクノロジー）の危機、民主主義（デモクラシー）の低迷、無力感（シニシズム）の蔓延——社会の閉塞感がますます強まっている今日、21世紀を生き抜くための智恵の構築を目指し、改めて「人間とは何か」を問い直す総合的視座を探究します。本授業では、文学部の掲げる①「生命の尊厳の探究者たれ」、②「人類を結ぶ世界市民たれ」、③「人間主義の勝利の指導者たれ」という三つの指針を軸に、科学と人間、日本と世界、理想と現実との架橋をいかに行なうかについて、受講者とのディスカッションも交えつつ考えたいと思います。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(23. 伊藤貴雄・18. 山岡政紀・29. 蝶名林亮／5回) (共同) 「人間学」とは何か。歴史における人間の定義や、諸科学の現状を概観しつつ、人間探究の総合的視座を獲得するための方法について考える。</p> <p>(29. 蝶名林亮／4回) 科学と人間との関係を扱う。脳死問題など生命倫理的テーマを通して、「生命の尊厳」とは何かについて考える、メディア授業振り返りレポート作成、メディア授業および振り返りレポートに関するディスカッション、質疑応答</p> <p>(23. 伊藤貴雄／3回) 日本と世界との関係を扱う。人類の歴史を顧み、現代世界の情勢を踏まえつつ、「世界市民」とは何かについて考える</p> <p>(24. 井上大介／3回) 学問と生活との関係を扱う。大学と社会の活性化との関係を取り上げ、現代に求められる「人間主義」とは何かについて考える。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
	異文化 コミュニケーション入門	<p>年々、外国からの観光客が増加しているだけでなく、外国籍の住民が占める割合も大きくなってきている日本。国際化が進み、多文化共生が叫ばれて久しいが、文化の違いによって起きる摩擦も少なくない。異文化コミュニケーション入門の講義では自分が育った環境で築き上げてきた考え・文化と、他の人が他の地域で育ち、築き上げた考え・文化の違いを様々な具体例から知ることからはじめ、その違いについて考察する。他の地域の文化を知り、それを理解していくことが摩擦解消の糸口である。日本語教員養成の大切な学問の一つであるといえよう。</p>	

専門科目	イントロダクトリー科目	<p>哲学は人類の最古にして最先端の学問であり、その歴史は古今東西の智者がおりなす絢爛たる知の絵巻といえます。新たな知の形成へ参画しゆく力をつけるためにも、歴史をこえて受け継がれてきた人類の「知の歴史」を学ぶことが求められます。本授業ではその入門として、西洋哲学の源流の一つであるプラトン『ソクラテスの弁明』と、初期大乘仏教として重要な『法華経』を学びます。それらの思想の魅力とは何か、またそれらが今日の我々に示唆する智慧は何か、受講生とともに考えていきたいと思います。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(23. 伊藤貴雄・70. 松森秀幸／第1回) (共同) 哲学・思想の勉強の仕方、古典的作品を読むときの心構えやコツを学ぶ。</p> <p>(23. 伊藤貴雄／8回) 『ソクラテスの弁明』と『クリトン』に関する時代背景等の基礎知識を学ぶ。『ソクラテスの弁明』と『クリトン』を読みながら主な論点について議論、メディア授業振り返りレポート作成、メディア授業および振り返りレポートに関するディスカッション、質疑応答を行なう。</p> <p>(70. 松森秀幸／6回) 大乘仏教の歴史を概観し、『法華経』に関する基礎知識、一仏乗、久遠の釈尊、地湧の菩薩など、『法華経』の中心思想を学ぶ。</p> <p>哲学・思想への招待</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
------	-------------	---	--------------------

<p>専門科目</p>	<p>イントロダクトリー科目</p>	<p>世界文学への招待</p> <p>グローバル化時代の今日、「世界文学」が再び注目されています。ともすれば「世界均一化」の傾向が指摘される中、「多文化尊重」を考える上で文学は外せないジャンルの一つでしょう。まずは担当講師が誘う独自の「文学世界」に熱く触れて頂くことが出発点です。「ああこんな読み方もあるのか」「こんなテーマが隠されていたのか」といった発見の連続でしょう。また世代も人生経験も多彩な受講生の皆様との意見交換、学問探究の場となることを願っています。では共に「世界文学」という大海への船出を開始しましょう。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6. 木下薫・26. 寒河江光徳／1回) (共同) 科目全体のガイダンスおよび「世界文学」をめぐる主旨の説明</p> <p>(6. 木下薫／4回) イギリス文学と風刺:ジョン・ダンからデイケンズへ、質問・意見交換、メディア授業振り返りレポート担当。 英国における風刺はチャーサーに始まるとされるが、17世紀のジョン・ダンの場合は、より直接的に対象を特定する。風刺詩Iは当時の学生生活を、IIでは詩人と法律家を、IIIは宗教界を、IVは宮廷を、Vは裁判官をといた具合である。19世紀のデイケンズも小説において、当時の功利主義批判において風刺の伝統に根ざしたユーモアを用いた。両者の共通点と相違点を考察する。</p> <p>(15. 鈴木邦彦／1回) シェイクスピアの戯曲について シェイクスピアが書いたものは戯曲であって、小説や物語ではない。ここを取り違えるとその面白さの多くを損ねてしまうだろう。当時の劇場構造や様々な演出の仕方に言及しながら、シェイクスピアの戯曲の読み方を考えていく。</p> <p>(4. 田中亮平／2回) ゲーテについて 「世界文学」という概念を、最初に提唱したとされるゲーテ。彼の考えた世界文学とはどのようなものであったのか。さらに晩年のゲーテの活動の中から、世界文学の「実践例」を取り上げて、その意義を考える。</p> <p>(1. 浅山龍一／1回) アメリカ思想を代表するひとり、エマソンは罪意識を持たず、神に近い存在として子供を讃えた。そして束縛を嫌い、自由を求める合理主義の子供を描き上げ、アメリカのいや世界の子供たち、そして大人たちの心を掴んだ文学者がトウエインであった。</p> <p>(26. 寒河江光徳／2回) ウラジーミル・ナボコフの文学講義を読む(チーフホフについて)、ナボコフの担当小説「フィアルタの春」を読む。</p> <p>(103. 栗原淑江／2回) アジア初のノーベル文学賞受賞者であるR・タゴールの思想と文学の特質について考察する。はじめに、その劇的な生涯を当時の社会状況を背景にたどり、その思想形成のプロセスを理解する。次に、代表的詩集『ギタンジャリ』を取り上げて鑑賞するとともに、その特質を理解する。</p> <p>(7. 高橋強／1回) 魯迅について。作品『狂人日記』、『阿Q正伝』を中心に、国民性の改造を推進していく為の2つの顔、即ちペンの顔および哲学者の顔の視点より、魯迅文学の普遍性や世界性を考える。</p> <p>(19. 山中正樹／1回) 近代日本文学の成立とその基層的特徴について 明治維新によって〈近代的自我〉が日本に移入される。その発見と確立のため、文学者達は近代小説を創出・変遷して行く。その経緯に触れた後、逍遙や四迷による近代小説の誕生と、鷗外・漱石による〈内面〉の探求の在り様を論じ、近代小説の持つ意義を講述する。</p>	<p>オムニバス方式 共同(一部)</p>
-------------	--------------------	---	---------------------------

専門科目	イントロダクトリー科目	<p>表現文化メジャーのイントロダクトリー科目に位置する本講義は、オムニバス形式で行われる。文学作品の読み方と書き方、都市空間に見られる表象としての意味、グロテスク論をはじめ、舞台芸術、アニメ、日本古典芸能など幅広いジャンルの芸術について鑑賞方法を学び、それぞれに貫かれる文化の「かたち」を学んでいく。さらに、レポート執筆を通じてこれらの鑑賞方法が自らの表現力の向上にどのように役立てられるかについて考察し、自らの表現技法の向上に役立てていく。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(19. 山中正樹・26. 寒河江光徳／1回) (共同) ガイダンス 表現文化とは何かを理解していく。</p> <p>(19. 山中正樹／3回) 〈記号論〉的視点から〈空間〉の〈意味〉を解説する 「全てのものが記号表現である」との〈記号論〉の知見を援用しながら、近代都市として形成された〈東京〉、および〈東京ディズニーランド〉という空間のもつ〈表象的意味〉や、そこに隠された〈物語性〉について考察する。</p> <p>(12. 大野久美／3回) 『オペラ座の怪人』ではA・ロイド＝ウェバーが生み出した曲の持つ意味を分析する。『マイ・フェア・レディ』ではギリシア神話や戯曲『ピグマリオン』との比較を行った上で『マイ・フェア・レディ』の魅力を考察する。2作品ともDVDを鑑賞しながら論じる。</p> <p>(26. 寒河江光徳／6回) グロテスクとは何か、ロシアのアニメはジブリになにを与えたか、歌詞の分析、メディア授業振り返りレポート、メディア授業および上記レポートに関するディスカッション、質疑応答、ゲスト講師による講演</p> <p>(97. 村上政彦／2回) 言葉と想像力について、文学と社会の関係、文学を学ぶ事は社会にどのようなコミットを可能とするのかについて論じる。その上で、小説の書きかた、テーマの設定の仕方、作品にもちこむ技法や仕掛けなど、小説家の視点から、文芸創作の基本について講義する。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
------	-------------	---	--------------------

専門科目	イントロダクトリー科目	<p>歴史学への招待</p> <p>大学で初めて「歴史学」を受講する人々には、「歴史」はともすると細々した事件を暗記することだと思われやすいですが、これは誤解です。20世紀の歴史家 E.H.カーは、「歴史とは現在と過去との対話である」と言っています。本講義では、まずカーのいう「対話」の意味を味わいながら、歴史とは何か、私たちは歴史にいかに向き合うべきか、といったことを考えなおしていきます。さらに、3人の教員が様々な角度から、日本史・西洋史・東洋史へのアプローチを試みます。それらを通じて、歴史学の多様性と可能性、歴史学を学ぶ楽しさを体験できるようにしたいと思います。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(27. 村上信明／5回) まず、歴史と歴史小説の違い、歴史の物語的性格について解説し、歴史学の有用性・実用性とその限界を学んでいく。そのうえで19世紀末以降の日本の「東洋史学」の流れを概観し、中国史・中央ユーラシア史（内陸アジア史）などの東洋史における歴史的枠組みと近現代の日本社会の歩みとの関連性を学んでいく。また、メディア授業振り返りレポート作成、1回目～5回目のメディア授業および6回目で作成したレポートに関するディスカッション、質疑応答を行なう。</p> <p>(14. 坂井孝一／5回) まず、歴史とは何か、歴史における「日本」とは何か、日本史における時代区分とは何か等の点について概説する。その上で平安末期から鎌倉初期にかけての時代に焦点を当て、朝廷すなわち公家政権と鎌倉幕府すなわち武家政権との関係、時代を動かした歴史上の人物の生き様、といった個別・具体的な事例を素材に、日本史を学ぶ面白さや醍醐味を理解できるようにする。</p> <p>(90. 永本哲也／5回) まず、第二次大戦後における日本の西洋史学の流れを概観する。次に、歴史像は時代の雰囲気、歴史家の立場、研究の進展によって変化するものであること、また社会史・文化史などの成立と影響の拡大により歴史の見方が多様化したことへの理解を深めるため、「宗教改革」像の変化とその背後にある時代と歴史像の関係について学んでいく。続いて、前近代のヨーロッパで描かれた様々な図像を読み解きながら、時代や文化が変わればモノの見方も変わっていくものであり、前近代のヨーロッパの人たちと現代の日本人とは世界の見方が違っていたことを学んでいく。</p>	オムニバス方式
------	-------------	--	---------

<p>専門科目</p>	<p>イントロダクトリー科目</p>	<p>現代社会研究への招待</p> <p>本科目は、社会学の基礎と主な研究領域11回、国際関係論の基礎2回、現代中国事情1回、現代ロシア事情1回の計15回の講義で行います。授業の到達目標は、1) 現代社会研究のさまざまなアプローチがもつ独自の視点とそれらがう主な対象領域について説明することができる。2) 現代社会の諸問題の幾つかを学問的に整理し、原因や働きや影響や変化について説明できる。3) 今後の社会のあり方について一定の意見を持つことができる。4) 現代社会を研究する意義を明瞭に論じ述べるができる。以上4点です。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(③. 清水強志/11回) 現代社会を研究するための基本的な視点を身につけるために、社会学の基本的な視点と、社会変動、社会の構造と機能、家族、地域社会、その他の社会集団などの社会学の主な対象領域を概観し、そこにおける問題点を認識します。(ディスカッションを行います。)</p> <p>(20. 玉井秀樹/2回) 現代国際社会における武力紛争、テロリズム、貧困といった解決困難な諸問題を理解するために、国際関係研究の思想と理論、実際の分析を学び、こうした課題にどのように取り組むべきかを考察します。</p> <p>(5. 武澎東/1回) 中国の農村と都市の経済体制改革を取り上げ、特に所得格差、資源の不均等な配分、社会的・政治的な不平等に焦点をあてて、中国の二元的社会構造がどのように多元化した階層社会に変容しつつあるのかを概観する。</p> <p>(16. 小崎晃義/1回) 激動の現代国際社会の中でも、ロシアは独自の存在感と影響力を強めています。この回では、そのようなロシアの独自性を生み出すロシア社会の特徴を、その歴史的、宗教的背景に着目して考察します。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>ベーシック科目</p>	<p>社会福祉論</p>	<p>本科目は、社会福祉を領域で分けてその歴史、現状、福祉政策を述べていく一般的な「社会福祉概論」の学び方と異なります。身近な社会問題から援助を「する」「される」といった立場から「社会福祉」を捉えるのではなく「市民」として、社会生活の「不安・不利・不信」の問題を考えます。ここでの学習は、社会福祉を専門としない人にも社会福祉を身近な問題として意識できるように設定されています。社会生活の「不安・不利・不信」からくる「生きづらさ」に関心を持った時こそ、各論的な社会福祉の学びが意義を持つでしょう。</p>	
	<p>日本語教育概論</p>	<p>この科目の目標は、日本語教師として働くために知っておかなければならない知識、身に付けておかなければならない技能、日本語教育に取り組む心構えなどについて学ぶとともに、日本語教師としての具体的な将来像を描けるようになることです。内容は、日本語教育を取り巻く社会的状況に関する理解を深め、その使命と役割について学びます。また言語学や教授法、評価法、第二言語習得理論、社会言語学などの概要、さらに異文化コミュニケーション、日本語教育略史などを学ぶことによって、日本語教育を歴史的、社会的に位置づけます。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(56. 山本忠行・96. 法貴寿子/15回) スクーリングの前半は主に日本語教育の現状や外国人が日本語を学ぶときの諸問題について学びます。後半は外国語教育の基本的な考え方や手法について体験的に学びます。</p> <p>(56. 山本忠行/15回) 前半の学習を踏まえて、日本語教育を取り巻く最新の情報を調べます。教科書に示された課題にしたがい、参考図書を活用しながら、教授法や第二言語習得などについてさらに理解を深めていきます。</p>	<p>オムニバス方式</p>

専門科目	ベーシック科目	仏教思想概論	「仏教」とは、古代インドで活躍した釈迦が説いた教えに起源をもつ宗教であり、現在では東南アジア、東アジア、チベット・モンゴルなどを中心に欧米にも多くの信者を持っています。東南アジアでは上座部仏教が、東アジアでは大乘仏教が、チベット・モンゴルではチベット仏教がそれぞれ中心的に発展してきました。本講義では、それらさまざまな仏教の基礎となる思想の構造と、その歴史的な展開を学んだ上で、履修者が仏教を現代の生きた思想として捉え直すことができるようになることを目標とします。	
		西洋哲学史 I	本講義では、古代から中世までの哲学の流れを概説する。全体の授業を貫くテーマとして「存在と認識」を設定する。このテーマのもとに、パルメニデスとヘラクレイトスをあげ、プラトンのイデア論を概説し、アリストテレスにおける存在論への道筋をわかりやすく説明する。アリストテレスの存在論を中世キリスト教世界がいかにかに受容したのかという問いから、中世哲学の領域に入る。ここではトマス・アキナスの哲学を取り上げ、その存在論を説明することで中世哲学の特色を明らかにする。	
		哲学概論	「哲学」というと少し堅苦しいイメージがあるかもしれませんが、この学問を一言で表すならば、「皆でいろいろとおしゃべりをしながら楽しく真理探究をしていく学問」です。そのおしゃべりをどのように行っていくことで、真理が追究できるのか、価値が創造できるのか、古典的な哲学の問題に取り組んでいく中で深めていきたいと思えます。古典的な哲学上の問題にも取り組んで頂きますが、授業で学習したことを日常生活の中で知人・友人に語って頂きその対話の内容を報告するという対話実践にも挑戦して頂く予定です。	
		文学研究法入門 I	<p>本講義の目的は文学作品を研究するにあたっての研究方法を学ぶことである。文芸批評理論の基本について概説しながら、専門用語の使用を最小限にとどめた非理論的方法で文学を読む方法についても考察する。具体的には、ウラジーミル・ナボコフが述べた「再読」の意味や、細部描写に光を当てることによってどのように独創的な「読み」を見出していけるか、など。さらに、文学作品の分析をおこないレポート執筆を通じて、文学作品の研究方法を身に付けていくことを到達目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(26. 寒河江光徳／9回) まずは詩の読み方を学ぶ、小説の読み方「ナボコフの文学講義」序文を読む、ポップのソングの歌詞から学ぶ解釈の技法、トルストイと異化 シクロフスキーの「手法としての芸術」を読む、「構成の原理」「アナベル・リー」「ロリータ」の系譜、構造主義と脱構築について、ポストコロニアリズムについて、メディア授業振り返りレポート作成、作成したレポートに関するディスカッション、質疑応答</p> <p>(19. 山中正樹／3回) 新しい観点から日本近代の名作を読み直す 中学や高校までに習った「坊っちゃん」や「走れメロス」などの名作を、F. ソシュールの〈言語論的転回〉やR. バルトの〈文学の記号論〉を経た後の文学理論を通して読み直し、新たな作品解釈の実際を学ぶ。</p> <p>(2. 佐々木精治／1回) 物語の多層構造とその意味するものの解釈、物語の舞台のトポロジーや先行作品の引用など、テキストの随所に仕掛けられた「謎かけ」としての様々なモチーフの解説を通して、ドストエフスキーの『罪と罰』の様々な読みの可能性を探る。</p> <p>(97. 村上政彦／2回) 書き手の視点から読む文学 ディスカッションを用いながら、短編小説の分析に挑戦する。文学作品の読み方について書き手の視点を交えるとどのような読みの深みに至れるか、受講者と議論しながら考える。</p>	オムニバス方式

専門科目	ベーシック科目	文学研究法入門Ⅱ	<p>本講義の目的は文学作品の研究するにあたっての研究方法を学ぶことにある。テリー・イーグルトンの『文学とは何か』で扱われる新批評、ロシア・フォルマリズム、構造主義、記号論、現象学・解釈学、受容理論、精神分析批評、脱構築に加えて、ポスト・コロニアリズム、新歴史主義、エコクリティクスについても説明し、文芸批評理論の全体像を掴み、それらの方法論をつかって文学作品を分析する方法を学んでいく。さらに作家村上政彦氏による講義で、創作と批評の問題について考察する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(26. 寒河江光徳／7回) ロシア・フォルマリズムとは何か、構造主義的読解の方法、記号的読解、受容理論を用いること、精神分析批評の用法、脱構築について、ポストコロニアリズムについて、書評レポートを作成の仕方について学ぶ。</p> <p>(97. 村上政彦／8回) 文芸批評理論を踏まえつつ、批評理論の言葉になるべく頼らず、自身が選んだ作品について、レポートを作成する。その際、方法としては、叙述性ではなく描写性を重んじること。あるいは、テーマの面白み、読者を欺く仕掛けなど、論理だけでなく感性重視の視点を盛り込むことも視野に入れる。</p>	オムニバス方式
		ロシア文学入門	<p>本講義は、ウラジーミル・ナボコフの『ロシア文学講義』を読み、そこでとりあげられる作品が作家ナボコフの手によってどのように解釈・講義されたかについて学びながら、文学作品を読むにあたって必要な「再読」の意味と、「細部描写」の価値について考察していくことを目的にする。さらに文学作品を構造的に把握した上で、詩と散文のコントラスト、円環構造、ポーシュラスチ、比喩の実体化、などナボコフが『ロシア文学講義』において講義した内容について学んでいく。</p>	
		日本文学概論	<p>初学者を対象に、「日本文学」を研究するために必要だと思われる、基礎的知識・文学用語・文芸概念および文学理論について講述する。はじめに、＜文学＞上のジャンルである＜小説＞を取り上げ、その語義と適用範囲・語源・歴史的展開・日本における受容の在り様・明治維新以後の近代小説の誕生など、さまざまな角度から解説する。続く講義前半では、基礎的な定義と分析概念の講義を行う。講義後半は実際の小説を題材に、前半で紹介した分析概念を用いて考察する。</p>	
		日本語学概論Ⅰ	<p>現代の日本語を中心として、日本語の構造を理解し、日本語を分析する視点を養成することが目標となる。日本語の位置づけや言語学について学んだ後、日本語の音声・音韻、表記・文字、語彙、文法、文章・文体という言語構造の理解を、現代日本語を主要な資料として学ぶ。次いで、日本語の方言、言語生活、日本語教育など、言語構造の周辺部分の分野を学ぶ。そして、日本語学の基本的な知識・概念の理解を中心とし、その知識を確かに伝えられる表現力・文章力を養う。</p>	
		日本語学概論Ⅱ	<p>古代の日本語を中心として、日本語の構造を理解し、日本語を分析する視点を養成することが目標となる。古代日本語の音声・音韻、表記・文字、語彙、文法、文章・文体という言語構造に関わる分野の理解が中心となる。次いで、日本語の方言と歴史、言語生活の歴史、日本語研究の歴史などの言語構造の周辺域に渡る分野も学ぶ。そして、日本語の歴史的事実とその変遷に関わる基礎的な事実を理解したことを表現する文章力の養成も併せて培う。</p>	

専門科目	ベーシック科目	比較文化Ⅰ	最初に「文化」とは何かについて理解する。世界には多くの文化圏があるが、この授業では特に英語圏の文化を中心に取り上げる。グローバル化の中で、英語が世界で多く用いられる言語の1つだからである。さらに、日本の中の文化の違いについても随時取り上げて、一人一人が実は異文化であるということも理解する。日英の文化の違いを中心にして、両者の文化の単なる比較だけではなく、異なる文化的背景をもつ人々とのコミュニケーションにはどのような問題があり、問題が生じたときにいかにうまく対応するとよいかを考えていく。	
		比較文化Ⅱ	ハンチントン『文明の衝突』という本の中で、世界の文明を9つの大きな文明に分けている。この授業では、それぞれの文明の特徴をまず理解して、その特徴がどのようにして生まれてきたのかを探求する。特に、それぞれの文明・文化は特定の宗教と結びついており、それらの宗教を理解することはこのグローバル化の時代を生きていくうえで重要であろう。最終的には文明の衝突を避ける道を探る、日本文化では『古事記』の冒頭の箇所を取り上げ、自然観や人間観が他の文明とどのように異なるかについて考えていく。	
		歴史学概論	この授業では、歴史学という学問分野の見方と方法を概観する。第一に、歴史学とはどのような学問か、歴史をどのように見るべきかという、歴史学の基本的な見方を学ぶ。その際、欧米さらには日本の歴史学の大きな流れといった史学史的側面についても触れる。第二に、史料批判など実際に歴史学の研究を行う際に身につけなければならない基本的な方法について扱う。このように歴史学の基本的な見方と方法を概観することによって、歴史学という学問分野の基礎的知識を学生に身につけてもらうことを、本授業の目標とする。	
		比較文化史概論	日本の古典芸能を素材として、古代・中世・近世それぞれの社会と文化の関係を考え、比較という観点から日本文化の本質に迫る。具体的には、古代の伎楽・舞楽・散楽、中世の猿楽・田楽・能・狂言、近世の歌舞伎・人形浄瑠璃・落語・講談などを取り上げ、これらの芸能がどのような内容・特質を持ち、社会の中でどのような位置づけを得ていたのか、どのように変化・発展していったのかという点について考える。目標は、日本の代表的な古典芸能を理解し、歴史の中に位置づけることができるようになることである。	
		考古学概論	考古学は過去の人々が残したモノから過去の事象を推理し、人類が歩んできた道を顧みる学問である。そのままでは何も語らぬ石器や土器から過去の事象を明らかにするためには、文献史学とは異なる理論や研究方法を要する。本講義では、指定したテキストに基づき、考古学を学習・研究する上で必要となる概念や理論、研究方法を学ぶ。年二回のレポートは、①テキストの中で扱われた研究方法などを一つ選びそれをより詳しく調べるもの、②近年報道で話題となった考古学的な発見を一つ選び、これを研究するための方法を論じるものとする。	
		現代ロシア概論	ロシアは日本の隣国であるにも関わらず、「近くて遠い国」と言われるように、その実情が正しく伝えられているとは言えません。一方で、近年日本にとっても国際社会にとっても、ロシアを正しく知る重要性が増しています。この講義は、ロシア語を専門としない学生が、ロシアについて様々な観点から基礎的な知識を学ぶことを目的としています。各回の講義では、取り上げたテーマについて分かりやすく解説するとともに、さらにより深く知ることができるように、専門的な参考文献や関連するWEBサイトなども紹介します。	

専門科目	ベーシック科目	国際関係論	「主権国家により構成される社会」の構造と動態を明らかにすることをめざして発展してきた国際関係研究の思想と理論、実際の分析を理解したうえで、現代の国際社会が多様な行為主体によって構成される「地球社会」へと移行するプロセスにあることを学びます。そして、このような国際社会の変化の中で、武力紛争、テロリズム、貧困といった解決困難な諸問題が生じていることを理解し、こうした課題にどのように取り組むべきかを学んでいきます。	
		社会調査の基礎	本科目では、量的社会調査と質的社会調査を実施するうえで実際に役立つ調査スキルやデータ分析力の要点について学修します。「量的社会調査」では、①量的・質的データの集計、②統計的検定、③探索的データ解析、④結果の表示の仕方（図表の種類と適否）⑤データマイニングについて、実践的な内容を学びます。もう一方の「質的社会調査」では、①インタビュー法、②生活史法、③参与観察法の考え方とその基本的な手法について理解を進めます。本科目では、実証科学にとって必須の能力となる情報リテラシーと批判的思考力の習得を目標にしています。	
		社会学概論	本科目では、個人と集団との関係、個人の結合から生まれる「社会」の自律性と拘束性などの社会の諸特性から、私たちの社会で起きている様々な問題を、社会学の基礎論と社会学的思考法を使って読み解いていきます。扱う問題は、家族、ジェンダー、都市、人口問題、格差社会、情報化と監視社会、グローバル化、ナショナリズムなど現代の日本社会が直面している社会的リスク問題です。本講義では、社会学の基礎知識と社会学的思考法の習得、問題解決能力の養成を目標にしています。	
		文化人類学	文化人類学の諸理論を現代的課題と連動させて紹介する。グローバル化する現代社会において、異文化理解という課題はこれまで以上に重要となっている。本講義では文化人類学の中心概念を体系的に紹介し、異文化理解、他者理解という課題に対する認識や態度を養成する。事例としては、担当者の研究領域であるメキシコやキューバなどの文化実践を紹介し、グローバル化社会におけるローカル性、個別性における普遍性などについて考察を促したい。	
		日本語コミュニケーション論	言語学の中で最も意味的な領域を扱う語用論の基礎知識をもとに、日本語における対人コミュニケーションのあり方について学びます。人は対人コミュニケーションにおいて、暗黙のうちに高度な約束ごとや思考法を駆使することによって表現形式よりもっと豊かな内容をやり取りしています。それを改めて客観的に意識しながら考えていきます。特に後半は、日本語学の最新トピックとして「配慮表現」を取り上げます。日本語教師をめざす人たちのために、コミュニカティブ・アプローチとの関連も学んでいきたいと思えます。	
		対照言語学	対照言語学は任意の2つの言語を比較し、その相違点や類似点を明らかにすることを目的とする言語学の一分野である。言語の特徴をより深く捉え、外国語教育に役立つ大きな知見を得られる。講義では中国語と日本語、英語と日本語等の対照から、それぞれの言語の特徴を捉え、言語の理解を深める。また、日本語学習者の誤用を母語の干渉や転移等から分析し、日本語教育への応用について考察する。さらに日本語と外国語の対照分析を行なう。その際、学習経験のある外国語と日本語の比較対照するため、辞書（電子辞書も含む）の使用を勧める。	
		日本語音声学	目標：日本語の音声的特徴について、音声学と音韻論の両面から認識し分析する能力を養う。 授業計画：①音声学とは②調音音声学③文字と音声④音声記号（IPA）⑤母音⑥子音⑦撥音・促音・長音⑧音素と異音⑨弁別素性⑩音変化⑪拍と音節⑫アクセント⑬イントネーション。これらの項目について理論のみならず、演習を通して実践的に知識が身に付くようにしたい。特にIPAを用いての音声認識は学習の土台となるため、取り分け重要である。アクセントの把握も実習が重視される分野である。これについては方言への言及が必要である。	

専門科目	ベーシック科目	倫理学概論	倫理学は、社会で当たり前だと思われていることについて、権威や常識にとらわれずに、自分自身で本当に正しいのかどうかを問い直すことを学ぶ学問です。教科書で展開される議論に積極的に参加することを通して、善とは何か、あるいは、どのような行為が悪と見なされるのか等について自分自身で考え抜くことに挑戦していただきたい。そして自身の考えの根拠や理由が説得力を持つものであるのかどうかを、異なる意見を視野に入れながら、批判的に検討できるようになることが目標です。	
		日本思想史 I	古代から近世にいたる日本の思想の展開について概説する。基本的な用語や思想の内容を理解し、歴史上のさまざまな事件を思想の観点から分析できるようにする。1 古代における思想の展開（総論1）、2 仏教の受容と展開（総論2）、3 神道と儒教（総論3）、4 神話と歴史記述、5 南都六宗、6 平安時代の文化、7 中世における思想の展開（総論4）、8 鎌倉時代の文化、9 中世後期の文化、10 戦国時代の文化、11 近世における思想の展開（総論5）、12 儒学思想、13 国学思想、14 維新の思想、15 伝統思想と近代化	
		イギリス古典文学史	イギリス文学史の上で重要な作家や作品、それらの周辺事情や相互の関連など、（一人の作家、一つの作品だけに拘る前に）知っておくべき全体の流れを学ぶが、その中で、この科目では中世から18世紀の途中まで、英語文化・英語文学の源流ともいべき部分を扱う。教科書は、著者自身が航空写真や地図に譬えているように、飽くまでも概略的なものでしかないので、各自で作家や作品について更に調べたり、作品を見つけて実際に親しんだりするきっかけにしてほしい。	
		イギリス近代文学史	イギリス文学史の上で重要な作家や作品、それらの周辺事情や相互の関連など、（一人の作家、一つの作品だけに拘る前に）知っておくべき全体の流れを学ぶが、英語文化・英語文学の源流ともいべき部分を学んだ「イギリス古典文学史」に続き、こちらでは後半の18世紀から20世紀、つまり、近代小説が生まれ、ロマン派が活躍するあたりから近・現代までを扱う。教科書は飽くまでも概略的なものでしかないので、各自で作家や作品について更に調べたり、作品を見つけて実際に親しんだりするきっかけにしてほしい。	
		アメリカ文学史	1620年12月、信仰の自由を求めるピューリタン102名を乗せたメイフラワー号が新大陸に到着。アメリカとアメリカ文学は彼らとともに始まったと言ってよい。彼らがピューリタン信仰に引きずられ、あるいは乗り越える形でアメリカ思想は発展し、その変化のさまが文学作品に見られる。これらはアメリカ人の心を描き、また逆に、読んだアメリカ人に誇りと感動を与え、行動に駆り立てたのである。アメリカの植民地時代から、独立、南北戦争を経て20世紀に至るまでの主要文学を追う。文学の流れを通して、アメリカが何を求めて来たかを学びたい。	
		演劇入門	演劇の要素、即ち、戯曲（劇作家）、俳優、観客、劇場の4大要素の関連性、複合芸術としての演劇を論じる。これらの基本的概念を踏まえた上で、ギリシア劇、アメリカ演劇、ミュージカル作品の映像を使用しながら、立体的な授業を展開してゆく。授業で扱う主要作品については、ギリシア劇『王女メディア』、アメリカ演劇『夜への長い旅路』、ミュージカル『マイ・フェア・レディ』などである。演劇作品をより深く理解するための知識を身に付けることを目標とする。	
		ロシアの歴史と文化	西欧のそれとは異なる独特な寺院建築を生み出し、時にロシア・メシアニズムという特異な形態すら現出させるロシア正教、日本の近代文学にも大きな影響を与えたロシア文学、きら星のごとく輝く数々の天才を生み出したロシア音楽、独特な原理で描かれるイコン芸術や現代アートの揺籃たるロシア・アヴァンギャルド芸術を生み出したロシア美術・映画・舞台芸術の多彩な世界について、DVDや種々の映像資料で紹介するとともに、これを生み出したロシアの起源からロシア革命直前までに至るロシアの歴史の流れについて、概略的に学ぶ。	

専門科目	ベーシック科目	東欧の歴史と文化	「ピアノの詩人」はショパンです。ノーベル賞を2度受賞した女性はキュリー夫人です。『カティンの森』のワイダ監督、元ローマ教皇、みんなポーランド人です。ポーランドには第二次世界大戦中、アウシュヴィッツなど強制収容所が作られました。ポーランド史を通して激動の20世紀の動きにアプローチしていきます。主に以下のテーマを取り上げます。(1) 第二次世界大戦中のポーランド——ホロコーストを中心に(2) ポーランド関連最新ニュース	
		映画論	日本映画史の里程標を成すような傑作について、リメイク（再映画化）との比較を通して知る。日本映画の日本と日本以外（アメリカ、韓国、中国など）におけるリメイク作品を取りあげる。映画とそのスタッフ、キャストについて簡単な解説をした後に、作品の一部（いわゆる「見どころ」）を上映する。感想などを討議する。または、小レポートに記してもらおう。次に、同時代批評、作品研究を読み、映画史への位置づけを試みる。計15本×αの作品を、自宅などで全編通して見ることを義務とする。	
		日本文学史	日本文学の主要な作品を時代順に、実際に読んで自ら特質を掴んでいくことを通し、日本文学の歴史を概観できるようにする。口承の時代の日本語の文学を考えることから始め、古い時代のもので古事記や風土記といった神話・記紀歌謡・万葉集の歌などを中心に読む。中古の文学としては伊勢や源氏といった物語や和歌集を読む。中世の文学として平家などの軍記物語、方丈記・徒然草などの随筆、能楽に触れる。近世の文学としては俳諧・戯作・歌舞伎を読むことで流れを掴む。近代以降の文学については通史的流れを掴む。	
		中国文学Ⅰ	国古典文学のうち、日本でも良く知られている作品の一つが「三国志」である。この講義では、明代に成立したとされる三国時代の歴史を踏まえた小説『三国演義』を扱うが、三国時代の歴史を記した史書『三国志』にも目を向け、また、各時代の文学潮流にも触れることで、「三国志」をより深く理解することを目標とする。さらに、中国古典文学において主流を占めた作品形式である「詩」を中心に、詩人は三国時代の人物や出来事をどのように詩に詠ったのか、詩に詠うことで何を表現したかったのか、といった点にも着目する。	
		中国文学Ⅱ	「中国文学Ⅰ」にて扱った、史書（『三国志』）と小説（『三国演義』）の差異、各時代の文学潮流の理解を前提にして、より深く、広く、「三国志」の人物を詠った詩作品を取り上げ、詩人の置かれた状況や、その時の思いを読み取ることを目指す。特に、劉備の建国した「蜀漢」を正統として描く、『三国演義』成立の前と後とでは、詩人の認識がどのように変化したのかに注目する。よって、「中国文学Ⅰ」の履修済みであることが望ましい。	

専門科目	ベーシック科目	<p>言語学概論</p> <p>目標は、日本語を科学的・客観的に分析するための言語学的知識を身に付け、それを外国人の日本語指導に活用できるようにすることです。内容は大きく2つに分かれます。前半は日本語を言語学的に分析し、日本語の特徴を、音声学、形態論、文法、語彙、統語論などの観点から分析していきます。特に助詞の用法や活用の仕組みと機能などに焦点を当てて学びます。後半はヨーロッパやアジアの言語を9言語取り上げ、その発音や表記、語彙、文法などの面から特徴を学びます。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(56. 山本忠行・86. 秋田恵美子／15回)</p> <p>前半は日本語を言語学的に分析し、日本語の特徴を、音声学、形態論、文法、語彙、統語論などの観点から分析していきます。特に助詞の用法や活用の仕組みと機能などに焦点を当てて学びます。後半はヨーロッパやアジアの言語を9言語取り上げ、その発音や表記、語彙、文法などの面から概要を学びます。</p> <p>(56. 山本忠行／15回)</p> <p>テキストの理解をさらに深めていきます。たとえば撥音や促音の発音、あるいは五段活用動詞のテ形やタ形を作る規則などについて詳細な分析を試みます。前半の学習で概要を学んだ外国語について、練習問題を解きながら理解を深めていきます。</p>	オムニバス方式
		<p>日本古代・中世史概説</p> <p>日本の平安時代末期から鎌倉時代初期にかけての、いわゆる古代・中世の歴史について、鎌倉幕府の創設者源頼朝に焦点を当てつつ概説する。東国に基盤を持つ武士たち、及び武士たちによって生み出された武家政権と、京都の朝廷という伝統的な公家政権との関係を、最新の研究に基づいて明らかにしていく。こうした具体的な事例に対して詳細な分析を加えることにより、日本の古代中世社会に見られる特質や、歴史のダイナミズムを理解できるようになることが目標である。</p>	
		<p>西洋史概説 I</p> <p>この授業では、メソポタミアにおける文明の発生から15-16世紀の地理上の発見までの、西洋文明の歴史における各時代の基本的特徴を学んでいく。時間が限られているので、各文明・各時代の詳細というよりも、他の文明・時代との相違や現代社会への遺産・意義などに焦点を絞りたい。具体的には、メソポタミア文明とエジプト文明の相違、古代帝国の形成、ギリシャ文明、ローマ文明、ビザンツ文明とヨーロッパ文明、封建制度、中世都市、十字軍、中央集権国家の形成、ルネサンス、宗教改革、地理上の発見などが講義の対象となる。</p>	
		<p>西洋史概説 II</p> <p>この授業では、16世紀のスペインの覇権から現代のEU統合までの、特にヨーロッパを中心として各時代の基本的特徴を学んでいく。時間が限られているので、各時代の詳細というよりも、他の時代との相違や変化の大きな原因、現代社会への影響・意義などに焦点を絞りたい。具体的には、スペインの覇権、オランダの台頭、フランス絶対王政の成立、第二次英仏百年戦争、啓蒙主義、フランス革命とナポレオン、自由主義、産業革命と社会問題の発生、帝国主義、二度の世界大戦、冷戦などが講義の対象となる。</p>	
		<p>東洋史概説 I</p> <p>「中国」は一つのイメージでは捉えることのできないスケールの大きさと多様性を持っていますが、それはここ数千年にわたる中国（漢地）とモンゴル・チベット・マンチュリア・朝鮮・日本・東南アジアなどの周辺地域との交流や競争、また世界規模の人・モノ・情報の移動などの影響を受けて形成されたものです。この授業では、古代～中世（10世紀まで）の東方ユーラシア世界における歴史の展開について概括的に学んでいき、その大きな流れと重要なポイントを理解し、より専門的な学習を行ううえでの基礎知識を習得することを目指します。</p>	

専門科目	ベーシック科目	東洋史概説Ⅱ	現代「中国」のもつスケールの大きさと多様性はどのようにして形成されたのか。それを理解する上で重要なのが、11～14世紀の北方民族（契丹・女真・モンゴル）の中国進出、15～20世紀初頭（明清時代）の経済発展と人口・領土の拡大、20世紀初頭～現代の戦争・革命から改革開放に至るまでの歩みの歴史です。この授業では、近世（11世紀）～現代の東方ユーラシア世界における歴史の展開について概括的に学び、その大きな流れと重要なポイントを理解し、より専門的な学習を行ううえでの基礎知識を習得することを目指します。	
		現代中国概論	1978年12月に改革・開放政策が採択されてから、中国は目覚ましい変貌を遂げた。政治では三権分立を採用せず、一党独裁による議行合一システムを堅持し、民主化の動きを抑制しながらも、「県」以下の行政区分では直接選挙を導入した。外交では、「核心的利益」を堅持すると同時に、「平和的発展」を表明し、全方位協調の外交へ転換した。社会では「2つの階級と1つの階層」から「10の階層」に変貌し、市民団体の活動が台頭している。経済では高度成長を成し遂げたが、所得格差の拡大や環境破壊をもたらした。変化が速すぎる中国を、教科書を中心に政治外交、社会経済の分野から読み解きたい。複眼的に学習することによって、広さと多様性を持つ中国をより正確に把握し、中国への理解を深めるよう期待している。	
		中央アジア論	1991年のソ連解体とともに中央アジア5ヶ国（キルギス、カザフスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン、タジキスタン）が新たに独立した国家となりました。これらの国々は、かつてのシルクロードの要衝として歴史的に有名ですが、近年では、ロシアが主導する「ユーラシア連合」構想と中国が主導する「一帯一路」構想の狭間にあつて、激動のユーラシアの中心として新たに注目を浴びています。この講義では、急速に変化するこの広大な地域の歴史、文化、社会、経済などを概観し、その国際社会における役割や日本との関係について考察します。	
		社会学史概説	本科目では、社会学という学問がどのようにして生まれ、どのように発展してきたのかという「理論と歴史」について学ぶ。とりわけ、社会学をつくった、デュルケーム、ウェーバー、ジンメル の学説を正確に理解した上で、さまざまな社会学理論を学ぶ。社会学は近代の産物であり、新しい社会学理論の登場が社会変化による要請であれ、理論の欠点を補うためであれ、上記三者の理論を踏襲して構築されている場合が多いからである。なお、講義では、理解を促進するために各社会学者が生きた時代や背景についても触れる。到達目標は以下の3点である。①社会学が近代社会の自己認識の学問といえる理由を理解し、明瞭に説明することができる。②社会学史、さらに広く学問の歴史を学ぶ目的と意義について一定の見解をもち、それを明瞭に論じ述べることができる。③社会学者の学説・理論について、概略を説明することができ、私たちを取り巻く現代の諸問題の解明に、それをどのように適用できるかを述べることができる。	
		家族の社会学	現代日本の家族の理解を目的として、「家族」について社会学的に考察しようとするものです。まずは、家族理解のために基本的な社会学的理解の枠組みを提示します。続いて、社会集団としての家族に注目しながら、家族の基本的な特徴を理解します。さらに、家族を取り巻く社会状況に留意しながら、夫-妻、親-子という二つの家族の内部の基本的な関係を中心に家族を考えていきます。また、家族問題として関心の高い事柄についても考えていきます。	
		地域と都市の社会学	本講義では、共同体としての都市と村落の基本的な特徴、都市的生活様式（アーバンイズム）、都市と社会的ネットワーク、都市圏の発展段階、インナーシティの危機と再生、文化生産とまちづくり、情報化都市と監視、などのテーマを取り上げ、①都市が私たちの生活をどのように変えるのか、そして②現代都市がどのように変化しているのか、という問題を考察します。本講義では、地域社会と都市がこれまでどのように社会学的に研究されてきたかを俯瞰し、都市化社会で賢く生きるための社会学的思考法を習得することを目標にしています。	

専門科目	ベーシック科目	ジャーナリズムの社会学	日々の記録から始まったジャーナリズムは、メディアの発達により出版、放送、そしてインターネットへと活躍の場を広げてきた。この授業科目では、「ジャーナリズム」という概念をメディア産業の従事者の視点のみでとらえるのではなく、市民の目、あるいは市民が発信する際の指針としてとらえることが今後の社会のあり方とどのように結びつくのか考えたい。ジャーナリズムを考える教科書を読むことで、既存のマスメディア、新しいメディアの課題や問題点を探っていくことを目標とする。	
		宗教社会学	本科目は宗教社会学の学的成立史、基礎的諸理論を学び、近代社会における宗教が担っている役割や機能についての理解を深め、現代社会の宗教とのかかわりを学問的な視角から探求する力を養うことを目標とする。宗教社会学の諸理論のほか比較宗教学、文化人類学等の宗教研究の成果を学びながら、現代日本における宗教と社会状況・文化・政治との関係、さらにグローバル化した世界におけるナショナリズムや宗教的「テロリズム」との関係などを探究していく。本科目は「現代宗教の社会学」へと連続する内容となる。	
		児童福祉論	少子高齢化の進展、地域のつながりの希薄化、ひとり親家庭の増加など、子どもが育つ環境は厳しさを増している。このような状況において、子育て（待機児童や孤立化）や貧困、児童虐待など、子どもの育ちとそれを支える家族の問題は深刻さを増している。本授業では、子ども家庭福祉の理念であるウェルビーイングを中心に据え、児童福祉の実施体制と仕組み、子育て支援等の実施施策、虐待、非行、いじめ、引きこもりなど保護を要する子ども、児童福祉の課題などについて教材を通して分析しレポートする。	
	アドヴァンスト科目	社会言語学	社会と言語の関係について、以下のキーワードを挙げ学んでいく。話し手の属性や場面による言葉の違いを扱う「言語変種」、話し手と聞き手の多様な「言語行動」、言語と民俗の関係を考える「言語生活」、言語に対する態度が言語行動や変化の原因と考える「言語意識」、国家レベルで計画する「言語計画」、多言語との「言語接触」、社会的要因による「言語変化」である。目標は、社会言語学の基礎的な知識を習得し、具体的な事例をあげてそれらを説明できること。また、言語と社会との多様な関係性を理解することである。	
		日本語文法 I	初級レベルの日本語を教えるために必要となる文法事項について学ぶ。特に、国語教育と日本語教育での文法の捉え方や分析の仕方の違いに注目しながら、動詞、形容詞、名詞などの品詞について、その文法的特徴や下位分類などを見ていく。さらに、助詞の意味や用法についても学ぶ。また、基礎的な日本語文法の知識だけでなく、実際の教え方についても少し紹介する。目標は、国語と日本語教育の違いを理解し、実例を使って文法事項の説明ができること、文法構造を分析する視点を培うことである。	
		日本語文法 II	中上級日本語教育における文法項目について学ぶ。日本語母語話者を対象とする国語教育と違い、日本語非母語話者を対象とする日本語教育では、日本語を諸言語の一つとして客観的に見る視点からの文法観が求められる。そこで、「格」「態」「人称」「テンス」「アスペクト」「モダリティ」といった一般言語学の文法カテゴリーの視点から日本語を分析し、記述する思考法を学ぶ。そのことにより、学習者が日本語のどこに困難を感じるか、どこを間違えやすいかということを他言語と対照しながら予測できるように知識・技能の習得を目指す。	

専門科目	アドヴァンスト科目	日本語教材研究Ⅰ	<p>教材研究の目的、日本語教材の種類や使い方等の基礎的事項を学んだ上で、多様な市販日本語教科書を観察しその特徴を分析する。そして、日本語コースにおける教科書選びの方法、初級教科書の基本的な使い方、効果的な使い方について学ぶ。さらに、初級文型、動詞のフォームがどのような順序で提出されているか、初級文型をはじめとする学習項目がどのように提示されているかを調べ、その意図は何か、どのように指導すべきかについて考える。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(57.日高吉隆・96.法貴寿子／10回)</p> <p>教材研究の目的、日本語教材の種類や使い方、教科書選びの方法、初級教科書の基本的な使い方、効果的な使い方について学ぶとともに、初級文型、動詞のフォームがどのような順序で提出され、どのように提示されているかを考察する。</p> <p>(99.上川多恵子／5回)</p> <p>初級文型をはじめとする学習項目がどのように提示されているかを2冊の初級教科書について調べ比較し、その意図を考えるとともに、それぞれどのように指導すべきかを考える。</p>	オムニバス方式
		日本語教材研究Ⅱ	<p>中級の日本語教材について学ぶ。初級と中級の違いについて学んだ上で、中級教科書の全体の構成、各課の構成を観察し、その意図を考えるとともに、効果的な使い方について考える。さらに、授業を行うにあたって必要になる学習項目の洗い出しに取り組む。また、長文の要点をつかむ速読教材、論理的文章を書くための作文教材、テレビ番組を使った聴解教材、自然なコミュニケーションを目指す会話教材、非漢字圏学習者のための漢字教材の作成に取り組む。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(57.日高吉隆・100.東田明希子／10回)</p> <p>中級教科書の全体の構成、各課の構成を観察し、教科書の効果的な使い方について考える。さらに、学習項目の洗い出しの方法を学ぶとともに、中級の四技能の教材、漢字教材の作成に取り組む。</p> <p>(57.日高吉隆／5回)</p> <p>精読の授業を行うにあたって必要になる学習項目の洗い出しに取り組む。また、口頭表現能力を伸ばすためのロール・プレイを用いた会話教材、長文の内容理解を深めるための読解教材の作成に取り組む。</p>	オムニバス方式
		日本語教授法Ⅰ	<p>日本語教授法の歴史と理論を学ぶとともに、日本語教授法に大きな影響を与えたオーラル・メソッドやオーディオリンガル・メソッドといった外国語教授法の言語観、言語学習観、教育目標、教育内容、指導法について学ぶ。また、1970年代に提唱されたさまざまな外国語教授法、80年代に登場したコミュニカティブ・アプローチの理論や具体的な指導法を概観した上で、いまの日本語教育の現場においてどのような教授法が求められているかを考える。</p>	
		日本語教授法Ⅱ	<p>メディア授業では、日本語文法の最も基本的なことを学ぶ。面接授業では、初級日本語教育のコースデザイン、授業を組み立てる方法とその「練習方法」を中心に学ぶ。学習者へのニーズ調査・分析に基づき、コースが運営されることを学習する。特に、「シラバス」「練習方法」「評価方法」については、受講者全員で具体的に意見交換をしていく。「練習方法」では、「話す」練習を中心に考える。日本語教育におけるさまざまな教授法を概観する。また、多文化社会が進みつつある日本における目的別・対象別の日本語教育についても概観する。</p>	

専門科目	アドヴァンスト科目	日本語の表現	「よりよい日本語表現」について総合的に考察する科目です。まず、「単語」・「文」・「文章」の特徴を理解し、文章の仕組みや文章理解のための表現技術を学びます。具体例をもとに、文章の書き出しと結末の特徴、タイトルのつけ方、目に浮かぶような描写の方法、相手が知らないことを手際よく伝える説明の方法などについて学びます。さらに、より実践的な学びとするために、文学作品を分析しながら効果的な日本語表現を考察します。心豊かな表現、説得力のある表現、また、読み深めることの楽しさについて学んでいく科目です。	
		西洋哲学史Ⅱ	本科目では、近代から現代へと至る哲学の流れを学修する。まずはデカルトとスピノザ、そしてロックから始まるイギリス経験論を扱う。次にカントの批判哲学、そしてそこから始めるドイツ観念論の流れを学修する。第三に、フッサールの現象学、その発展形態としてのハイデガーの存在論に焦点を当てる。現代哲学の代表者としてウイトゲンシュタインとレヴィナスをあげ、言語論と他者論を中心にして現代の哲学を学修する。さらに、ベルクソンの生命哲学とニーチェの価値批判の哲学を学修する。	
		論理学	論理学は推論、論証を研究対象とし、正しい推論と誤った推論との区別を可能とする機械的な方法を発見することをその目的とする。われわれの思考の本質的な部分はこの推論によるものであり、論理的に正しい推論ができることは、合理的なコミュニケーションの基盤として特に重要である。本講義の目的は、命題論理、述語論理を中心として正しい推論ができるようになる技術を身につけ、そうした技術を応用し、様々な具体的な推論の問題に対して、自分で正解を導き出せるようになることである。	
		科学哲学	科学哲学とは、歴史哲学や社会哲学と並ぶ、哲学の一分野であり、科学という知的活動を対象として哲学的考察を行うものである。本講義では特に「科学とは何か」という問いに科学史、科学哲学、科学社会学の三つの観点からアプローチしてゆく。科学史の観点からは近代科学の誕生を明らかにし、科学哲学の観点からは近代科学の方法論と理論構造を解明する。そして科学社会学の観点からは、科学の社会制度化、科学技術化とそれに伴って要求される倫理を考える。	
		宗教学	移動・経済・情報のグローバル化が進んだ現代世界は、歴史的・文化的背景を異にする人々が日常的に交流する時代となりました。もともと宗教学という学問は、キリスト教を背景とするヨーロッパ人が近代化を進めていくなかで異なる価値体系を持つ人々の「宗教」という現象を理解するためのツールとして19世紀に誕生しました。本講義では、複雑な現代世界を理解するためのツールの一つとして、宗教学の基礎知識と世界の宗教に関する基礎知識を修得することを目標とします。	
		言語哲学	「言語哲学」という学問分野が探究していることは、「言葉の本当の意味とは何か」という問いです。私たちは「正しい」という言葉を日常的に使いますが、では、この「正しい」という言葉の本当の意味は何でしょうか。辞書にはこの言葉の意味として、「道徳・倫理にかなっている、事実に合わせている」などと書かれています。では、辞書が言うところの「道徳・倫理にかなう」「事実に合わせて」とはどのような事態なのでしょう。このような問いを掘り下げていくことで、辞書よりも一歩深い、言葉の意味を巡る探究を試みていきたいと思えます。	

専門科目	アドヴァンスト科目	東洋思想史	<p>本科目では、東洋思想の中でも『法華経』の思想とその展開に注目したいと思います。『法華経』は紀元1、2世紀頃にインドで成立した代表的な初期大乘経典であり、インドから中央アジアを経由して、特に中国・朝鮮半島・日本などの東アジアの大乗仏教圏において広く受容され、各地の思想や文化に大きな影響を与えてきました。本科目では、この『法華経』の思想的展開を中心に、『法華経』思想史を理解する上で決定的に重要な意義をもつ中国仏教の歴史と特色、さらには『法華経』の持つ現代的意義などについても学びます。</p>	
		日本思想史Ⅱ	<p>明治維新から現代にいたる日本の思想の展開について概説する。基本的な用語や思想の内容を理解し、歴史上のさまざまな事件を思想の観点から分析できるようにする。1 近代日本史の展開（総論1）、2 明治時代の思想と文化（総論2）、3 啓蒙思想、4 自由民権運動、5 国体論と信教の自由、6 初期社会主義、7 大正時代の思想と文化（総論3）、8 大正デモクラシー、9 昭和戦前期の思想と文化（総論3）、10 共産主義と国家主義、11 総力戦、12 昭和戦後期の思想と文化（総論4）、13 冷戦と市民運動、14 現代日本（総論5）、15 近代思想の達成と課題</p>	
		日本古典文学作家作品論	<p>源氏物語の主要場面を取り上げ、全編を見通すことを通して、この作品の内容とその特質を捉える。また、古文作品に親しみ、辞書を用いながら自分で読み、考える姿勢を持つことを目標とする。桐壺巻冒頭から始め、「帯木」三帖など短編系の巻々と「若紫」など長編系の巻とを往復しつつ物語の内容を掴みながら、「何が語られているのか」のみでなく「どのように語られているのか」という視座で物語を読んでいく。源氏物語の語りの方を知ることで、世界文学にも数えられるこの作品の達成を捉える。</p>	
		日本近代文学作家作品論	<p>この授業では、日本の近代文学の作品から、代表的なもの10篇程度を取りあげ、担当者の解説を中心に作品を鑑賞していく。その際、その作品を生み出した時代背景・文学史上の展開および作家（詩人）の経歴や思想などの基礎的知識にも触れて、受講生の理解に資するように努める。可能であれば、現代の研究状況を視野に入れつつ、作品が扱うテーマや文学理論に関する知見も参照し、受講生の読解能力の涵養を目指す。また、出来るだけテキスト所収の作品以外にも視野にいれて、近代日本文学上の諸問題について、受講生諸君と考察していきたい。</p>	
		漢文学特講Ⅰ	<p>漢文は日本人が古代中国語を日本語として理解するために編み出した「翻訳法」であるが、日本の文化・教育において、今でも根強く残っており、教養として意義のある存在である。古代から日本で受容され、影響を受けてきた詩や文などの作品群の読解を通し、漢文学・中国古典文学に対する理解を深めることを目標とする。受講の前提として、漢文に関する基礎的な知識があることが望ましいが、読解を進めつつ、基礎知識の復習も行う。</p>	
		漢文学特講Ⅱ	<p>「漢文学特講Ⅰ」にて扱いきれなかった作品を主に扱い、日本でも人口に膾炙した著名な作品を題材に、その表現方法（詩の形式・韻律・典故・対句等）や、描かれる内容、その背景となる歴史・思想などにも焦点を当て、より深く作品を理解することを目指す。そのため、漢文に対する基礎的な知識を有し、比較的平易な漢文であれば、自力で読むことができることを受講の前提とする。よって、「漢文学特講Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。</p>	

専門科目	アドヴァンスト科目	日本語の語彙・表記	日本語の語彙と表記に関わる分野を学ぶ。「日本語学概論Ⅰ・Ⅱ」などの基本的な知識を学んだ後に、より深く語彙・表記に関わる分野の知識を学ぶことが目標となる。語彙については、語種・位相・語義など、語彙的カテゴリーの理解を深め、調査研究を可能にする知識を習得する。表記については、文字と表記の関係をより深く理解し、漢字・ひらがな・カタカナ等の言語構造に関わる分野と、正書法などの現実の書記との関係を説明できる知識を学ぶ。語彙・表記とも、概論では深められていない日本語教育との関連も理解する。	
		日本近世・近現代史概説	日本の江戸時代（近世）から近現代に至るまでの歴史を概観します。特に19世紀以降の国際社会との関わりを中心にみていきます。19世紀に入りますと、欧米列強が東アジアに頻繁にやってくるようになりました。これは交通・通信手段の発達の結果ですが、それが日本にも押し寄せ、そして日本が開国することで、地球はついに一つの環となりました。そしてそれ以後も、世界はますます関係を深め、国際化、グローバル化していきます。この授業では、このような国際化の中で、日本がどのような道をたどったのかを明らかにしていきます。	
		中国の政治	現代中国は、中央集権、官僚支配などの伝統を継承しながら、一党支配の共産党、三権分立を採用しない国家、共産党が指揮する解放軍という複雑な絡み合いの体制で政治運営が行われています。本科目では、まず現代中国を研究する8つのアプローチから勉強します。次に政治プロセスを3段階に分けて、社会主義の選択、憲法の制定から、脱文化大革命、政治改革の議論、そして憲法改正と民主なき自由化を学びます。最後に党、国家、軍とその関係、陳情の政治学、人権と法を学習し、中国政治についての理解を深めることを目指しています。	
		中国の経済	中国は、社会主義の道を歩み、近代化を進める発展途中国でありながら、「世界の工場」といわれており、GDPで世界第2位の経済大国になりました。しかし所得格差や環境問題も同時に抱えています。この科目では、主に供給側の観点から工業に焦点を絞って中国の経済発展を勉強し、所得格差を考えます。とくに工業化政策を中心とする計画経済の仕組み、市場経済への転換、労働・資本・技術ならびに国有企業、外資系企業、民間企業の現状を中心に学習します。学習を通じてこれらの内容を理解できるよう期待しています。	
		メディアと社会心理	メディアと社会心理について、日常的なテーマを題材に、勉強する科目です。内容的には、社会心理学が中心となりますが、教科書では、メディアが人間や社会に及ぼす影響についても、さまざまな事例のなかで、触れられており、社会心理学とメディアについて、理論だけでなく、具体的な社会的なテーマを取り上げながら、勉強していきます。調査や実験などの紹介も含まれているので、統計学や心理学をあわせて勉強すると、さらに理解が深められると思います。	
		歴史の社会学	本授業では、インドネシアのジャワを事例としてアジア・太平洋戦争の占領下の住民に対する動員・統制のあり方を歴史社会学的に分析することを目的としています。 授業の前半は、教科書でアジア・太平洋戦争の全体像について、後半は、教科書で学んだ知識を前提としてインドネシアのジャワ占領について学びます。ジャワ軍政当局は、ジャワの住民を動員・統制するために、「教育」「スポーツ」「音楽」など、さまざまな「文化的な」方法を用いました。授業では当時の出版物や映像資料も多く使用しながら、これらの「文化的な」占領のあり方を歴史社会学的に考察していきます。	

専門科目	アドヴァンスト科目	ジェンダーの社会学	現代社会を読み解くカギの一つがジェンダー論である。「社会的・文化的性差」に着目するこの視点によって、従来、男性中心に考察されがちであった歴史・社会・文化のあり方を、多様な視点から再検討することが可能になったのである。本講では、家族、教育、労働、余暇、装い、社会参加など、人生のさまざまな諸領域を取り上げ、そこにみられるジェンダー・バイアスを明らかにするとともに、その根底に横たわる本質的な問題を明らかにする。さらに、残された諸課題を解決するための考察を行う。	
		現代宗教の社会学	本科目は、宗教社会学の基礎的理論、および比較宗教学をはじめとした諸宗教研究の知見をもとに、現代社会において宗教が担う役割や機能、現代社会に生きる人々にとっての意味世界の形成に宗教が果たしている役割について理解することを目標とする。近代日本の成立に伴う世俗化過程と現代日本社会の文化・政治状況と宗教の関係、グローバル化した世界の社会と宗教が果たす機能との関係を具体的な事例や先行研究をとおして探求していく。本科目は関連科目である「宗教社会学」において学んだ諸理論を基礎にして学修をしていく。	
		日本語教育学特講 A	目標は、小中学校において日本語指導が必要な児童生徒に対して、適切かつ効果的な日本語支援と J S L 指導ができるようになることです。内容は、3つの分野からなります。まず、外国人児童を受け入れたときのクラス運営や生活指導に関することを学びます。次に、日本語指導に関わる内容として、初期指導や J S L カリキュラムなどについて理解を深めます。生徒の言語習得過程と学習言語能力の問題などについても確認します。さらに、外国人児童生徒を取り巻く制度や法令などについて学びます。	
		日本語教育学特講 B	教育における「評価」とは、教育活動の実態を把握すると共に、その改善を第一義とするものである。教授する側と学習者の双方が、教育目標の達成度を知ることにより、それぞれの教授法、学習方法が適切であったか、不適切であればどう改善すればよいか、を考える大きな手がかりとなる。当科目では評価の具体的な一形態である「テスト」を実際に作成しながら、テストが備えるべき条件とは何か、妥当性と信頼性の高いテストとは何かを考えていく。	
		日本語教育学特講 C	目標は、日本語教育を通時的、共時的に幅広い視野から捉えることができるようになることです。内容は、まず日本語に関して日本語教育史、国語教育史および外国語教育史を踏まえつつ、言語政策的な観点から理解を深め、日本語教育の社会的使命とはどのようなものかを考えていきます。次に、世界の多言語状況を国別や地域別に見ていくことで、言語教育や言語政策の重要性について学びます。また、言語政策に関する基本理論を学び、多言語社会について自分なりの考察ができるようになることを目指します。	
		言語習得理論	第二言語とは母語以外の言語を指すため、日本語教育は第二言語の教育であり、第二言語習得である。本科目では、第二言語を習得するプロセスやメカニズム、また第二言語習得に影響を与える要因、バイリンガリズムと年少者への日本語教育、第二言語習得を研究する方法などについて学んでいく。目標は、人がどのように言語を習得していくのかを多面的に考えることができるようになること、第二言語習得の研究をもとに効果的な日本語教育のあり方について考えることである。	

専門科目	アドヴァンスト科目	英米児童文学研究	イギリスにおいて、多分最初に子供が主人公として文学に登場した『ロミオとジュリエット』（彼らは14歳）、およびスペイン生まれだが英訳され子供たちが楽しんで読んだ『ドン・キホーテ』を皮切りに、英米児童文学の流れを追う。大きくはピューリタン文学、啓蒙主義文学、ロマン主義文学、リアリズム文学という流れがあり、子供がたんに話題として登場したものから、主体者となり、大人の世界を変えるものへと進んでいく。児童文学を通して子供の大人への成長過程を楽しむとともに、イギリスとアメリカ（そしてヨーロッパ）の児童文学が互いに影響し合って新たな作品が生まれるさまを味わいたい。そのひとつの仕上がりは『トム・ソーヤーの冒険』であった。	
		ロシア文学	本講義では、ウラジーミル・ナボコフが『ロシア文学講義』において講義した視点を踏まえながら、文学講義で扱っていない作品にも、それらの視点を応用した読解に挑戦していく。具体的には、プーシキン、ツルゲーネフ、チェーホフ、ブーニン等の短編作品をいくつか取り上げ、ナボコフ本人が書いた短編作品の読解にも挑戦していく。ナボコフの作品読解においては、『ロシア文学講義』で指摘された内容が、作品の創作においても反映されていることを確認し、間テクスト性について考察する。	
		中東文化論Ⅰ	北アフリカのチュニジアで勃発した革命に端を発して、エジプトをはじめとする中東諸国での動乱へとつながりました。しかしシリアの内乱は、今もって鎮圧されていません。そしてヨーロッパ諸国においても、テロ事件が頻発しています。こうした状況は今後どのように推移するのでしょうか。中東文化全般を考えるうえで、イスラーム教への基礎知識を欠いてはなりません。本講義ではイスラーム文化の栄枯盛衰に視点をあて、キリスト教、ユダヤ教、イスラーム教の教義上の類似点や相違点、人々の生活や物の考え方などをグローバルな見地から把握します。	
		中東文化論Ⅱ	パレスチナ、中東和平、PLO、イスラム原理主義などといった用語が今日のマスコミ報道を通して、しきりに耳にとび込んでくるにもかかわらず、多くの人々はさしたる関心を示すことなく、そのまま聞き流してきた感があります。その理由は、この地域に関する基本的な知識が十分ではなく、どういった事実認識を出発点として、これらの問題を把握してよいのかという方向性が明確ではなかったからでしょう。まずこうした基本事項の整理から始め、「中東」を理解しましょう。	
		中央ユーラシア史	「中央ユーラシア」は東は中国から西はヨーロッパに至るまで、非常に広大な領域に広がっている。本講義では、東洋史・西洋史では脇役として描かれる傾向にあるこの地域の歴史を通時的に把握することを第一の目標とする。第二に、以下の4つの視点をもって中央ユーラシア史を学習することで、その特徴を理解することを目指す。 1. 「中央ユーラシア史」の定義／2. 遊牧民社会と定住民社会の相互関係／3. 東西及び南北方向の人とモノの流れ／4. 宗教的多様性	
		民俗学	日本民俗学を創始した柳田國男をはじめとする初期の民俗学者についての学史的な講義の後、映像資料を豊富に利用しながら、個別の生活文化についてわかりやすく講義する。具体的には、日本人の一生をめぐる通過儀礼の民俗や、暦、年中行事、儀礼食、縁起菓子、民間信仰、俗信、また、海外文化も移入して、変化した現代日本文化の多様性についても講義する。受講生各自が身近な民俗行事や祭礼などの観察を行うか、博物館での民俗展示を見学した後にレポートを作成することを目標としたい。	

専門科目	アドヴァンスト科目	西洋文化史	この授業では、西洋の様々な文化的側面について概観する。本授業で扱うのは、美術や建築、音楽のような狭義の意味での文化だけでなく、西洋の社会の全領域に現れる考え方や行動のパターンという広義の意味での文化を扱う。その際、西洋文化の最も重要な基礎であるキリスト教文化に注目する。キリスト教が、西洋の人々の宗教活動のみならず、政治、経済、法制度、価値観、生活、芸術など幅広い分野に影響を及ぼしていることを学生に理解してもらうことを、本授業の目標とする。	
		東洋文化史	中国前近代の諸文化より特定のテーマを選び、中国における変遷と周辺地域への伝播の様相について考察する。具体的には、中国における文化の変遷をその背景にある社会の変動と結びつけながら論じる。一方で、東アジア地域の中でも特に中国文化の影響を強く受けた朝鮮半島と日本がどのような受容の過程をたどったのかについて、中国との比較分析を通してその同質性と異質性を明らかにする。これらを通して、本講義では中国文化に対する多面的な思考を身につけるとともに、日本文化を東アジア史全体の中で理解することを目標とする。	
		古文書学	〔科目の概要と到達目標〕 古文書は日本史を解き明かす基本史料である。講義では、古代から近世における古文書について、様式とその機能を概説する。また、事例に即して読み方を学習するとともに、概要説明を通して、内容の読解力を高めていく。古文書を活用するための基本的な知識を習得することで、日本史の深みを実感し、身近な歴史への関心を高めることができるようにする。 〔授業計画〕 第1回古文書とは何か、第2回古文書の扱い方、第3～10回古代・中世文書を読む、第11～14回近世文書を読む、第15回まとめ	
		平和学	平和学は戦争防止の学として誕生しましたが、その後、戦争の結果であり、また、原因ともなる極端な暴力（人々の殺傷、甚だしい人権の侵害、著しい貧困、経済格差等々）を明らかにし、こうした暴力の解消こそが平和であるととらえ発展してきました。この科目では、国際社会における平和達成のための諸課題をとりあげ、問題を生み出している社会構造を理解するとともに、主権国家だけでなく市民自身が問題解決にどう取り組んでいくかを学んでいきます。	
		人間の安全保障	「人間の安全保障」という概念を中心として、現代国際社会における平和学の課題について考察していきます。「人間の安全保障」という概念が提唱された当時の国際社会の状況、例えば、「新しい戦争」とも呼ばれる武力紛争の発生が複合的な人間の「不安全」を引き起こしているといったことを理解し、安全の確保のために「誰が」、「どのような取り組み」をしているのかを学んでいきます。また、「人間の安全保障」を外交の基本方針としている日本政府がどのような役割を果たしているのかを検討していきます。	
		国際社会論	21世紀の世界は、主権国家により構成される「国際社会」から多様な行為主体によって構成される「地球社会」へと移行するプロセス、すなわちグローバル化が進行する世界であることを学んでいきます。その上で、このような国際社会の変化の中で、武力紛争、テロリズム、貧困といった解決困難な諸問題が生じていることを理解し、こうした課題への対応としてのグローバル・ガバナンスのあり方を検討し、現代国際社会の構造を学んでいきます。	

専門科目	アドヴァンスト科目	卒業研究A I	卒業論文作成に際し、テーマの選択、研究目的、研究理論、研究仮説、研究意義、研究範囲および先行研究の整理方法、研究方法について詳細に指導します。研究方法に関しては、文献調査、フィールドワーク、質的方法論、量的方法論について紹介します。先行研究の整理に関しては、専門分野における研究動向の整理、把握をベースに、自身の研究テーマの学術的独自性の発見について各人のテーマにそって指導します。学生は、それぞれの問題関心を明確にし、それらを専門分野の学術的動向と結びつけ、各人の卒論執筆にあたることとなります。	
		日本語教授法演習	<p>初級の授業における「文型導入と練習」の指導案作成と指導の方法について学ぶ。まず、「文型導入と練習」の授業を記録したDVDを視聴し、指導の問題点を検討する。そして、他の指導案例を紹介し、どのように「文型導入と練習」をすべきかについて考えとともに、指導案の書き方を学習する。その上で、実際に指導案を作成し、模擬授業を行う。模擬授業実施後は、担当教員と受講生による論評をもとにフィードバックし、授業をさらに改善する方法について考える。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(57. 日高吉隆・100. 東田明希子／10回)</p> <p>初級の「文型導入と練習」の指導案作成と指導の方法について学んだ上で、実際に指導案を作成し、模擬授業を行う。模擬授業実施後は、フィードバックをもとに、授業をさらに改善する方法について考える。</p> <p>(96. 法貴寿子／5回)</p> <p>初級の「文型導入と練習」の指導案作成に取り組む。同時に、場面設定、例文、教材は適切か、未習の語彙・文型を使っていないか、ドリルの内容・方法は適切か等について考える。</p>	オムニバス方式
		日本語教育実習	中級の精読授業の指導案作成と指導の方法について学び、外国人に対する日本語指導を経験する機会として本実習を行う。まず、中級における精読授業の進め方、教材研究のし方、指導案の書き方について学ぶ。そして、精読授業の指導案を作成し、それをもとに実際に留学生に対して授業を行う。実習実施後は、担当教員、参観した受講生、授業を受けた留学生による論評をもとにフィードバックし、授業をさらに改善する方法について考える。	
		卒業研究A II (異文化コミュニケーション日本語)	各自が異文化コミュニケーション日本語・日本語教育に関する卒業論文を作成することを目標とする。質量ともに、通学課程と同等のものであることを条件とする。まずはテーマを選び、それに応じた先行研究を各自が探し、批判的に読みながら、テーマを絞り込む。ゼミ内で発表し検討しながら、論文の方向性をさらに考える。まとまったところでそこまでのレポートを作成し、中間報告を行って、論文の概要を検討する。次に、レポートに関する検討を行い、テーマに関する見直し、先行研究の読み込み、論文の構成の確認等を進めて、卒論の具体的な執筆に向かう。	

専門科目	アドヴァンスト科目	<p>卒業研究A II (哲学・歴史学)</p> <p>哲学・歴史学などの人文科学の論文は、古典や史料といったテキストワークを中心とするため、科学実験や社会調査を中心とする他の諸科学とは異なる面があります。しかし同時にそれら他の諸科学と共通する論理性・客観性も備える必要があります。本授業では、哲学・歴史学の論文を書くとはそもそもどういう営みであるのか、過去から現在までの諸事例を踏まえつつ学びます。また、受講生が自分の論文のテーマや執筆計画を立てることができるよう具体的なアドバイスも行う予定です。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(23. 伊藤貴雄／2回) 第1～2回：人文系（哲学・思想史・歴史学）の論文のテーマ設定の仕方。カントをはじめとするドイツ古典哲学を題材に、テキスト読解のさまざまな方法（理論的分析／歴史的分析／社会的展開など）について学ぶ。各受講者の関心に添いつつ、論文作成に向けて分野（哲学思想中心か歴史学中心か）や執筆テーマを決め、目次などの構想を練る。</p> <p>(70. 松森秀幸／3回) 第3～5回：思想史の論文のまとめ方。『法華経』の中国をはじめとする東アジアにおける受容過程をテーマに、テキストの研究方法や、論文の展開方法を学ぶ。哲学に関心のある受講生を中心に、卒業論文の構想発表やそれに対するコメントも行なう。</p> <p>(27. 村上信明／3回) 第6～8回：歴史学の論文のまとめ方。清朝時代における多言語資料（漢文・満州語など）の活用方法を通して、歴史の実証的な研究方法や、論文の展開方法を学ぶ。歴史学に関心のある受講生を中心に、卒業論文の構想発表やそれに対するコメントも行なう。</p>	オムニバス方式
------	-----------	---	---------

専門科目	アドヴァンスト科目	<p>この授業では、文学、映画、舞台芸術についての論文の書きかたについて講義いたします。まず、文学は、詩・小説・戯曲に分かれます。その上で、文学作品から映画、あるいは、お芝居などに翻案された作品がありますが、それらを題材にしてどのような論文が書けるのか、それぞれの先生より講義をしていただきます。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(26. 寒河江光徳／1回) 詩の構造主義読解について。ロマン・ヤコブソンとレヴィ・ストロースの論文を紐解きながら。</p> <p>(1. 浅山龍一／1回) マーク・トウェインの『トム・ソーヤーの冒険』を主な章ごとに要約しながら、可能な論文のテーマと展開の仕方について話し合いたい。児童文学の流れの中での位置づけ、同時代の作家との比較、トウェイン思想の抽出等を試みたい。</p> <p>(4. 田中亮平／1回) ドイツ文学についての論文を書く およそ18世紀後半から現代に至るドイツ文学の歴史の中から、2, 3の作家の作品を取り上げ、論文を書くことを目的に一つ、どのような論点が可能であるかを考えていきたい。</p> <p>(15. 鈴木邦彦／1回) シェイクスピアの戯曲についての論文を書く 卒論では、大風呂敷を広げることなく、作品を絞り、地に足のついた論を展開していくことが、何より大事だ。その一例となればと思い、シェイクスピアの喜劇 As You Like It を題材に、劇中歌の機能についての考察をしながら、同戯曲の構造を探っていく。</p> <p>(6. 木下薫／1回) イギリス文学におけるデイケンズの小説作品、『クリスマス・キャロル』や『ハード・タイムズ』とその翻案としての英国BBC放送製作の映画やディズニーの映画を比較して論文を書く。</p> <p>(12. 大野久美／1回) 20世紀アメリカ演劇を代表するユージン・オニールの『喪服の似合うエレクトラ』(Mourning Becomes Electra, 1931)について論じる。特に、ギリシア劇とオニール劇の相違性と類似性、更に、フロイトの精神分析的な要素から登場人物の内面の葛藤を分析する。</p> <p>(19. 山中正樹／1回) 〈日本文学〉の研究上の課題と技法を学び、〈論文〉を執筆する。〈近代日本文学〉を中心に、〈日本文学〉を研究する上で必要な基本的知識と代表的な研究方法について、実際の先行研究に触れながら体得する。その上で、受講生各自の関心と興味に従って研究テーマを定め、実際に論文を執筆する。</p> <p>(26. 寒河江光徳・1. 浅山龍一・4. 田中亮平・15. 鈴木邦彦・6. 木下薫・12. 大野久美・19. 山中正樹／1回) (共同) 担当教員毎に分かれて、具体的な卒業論文の指導、質疑応答を行なう。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
	卒業研究A II (社会学)	<p>本授業では、社会学メジャーの各専門領域で卒業論文を書くために必要な知識・技法を習得することを目的としています。本授業は、社会学メジャーの学びの成果を学術論文としてまとめたい学生のための授業です。</p> <p>授業では「卒業研究A I」でとりあげた基礎的な内容を復習したあと、各自の関心領域 (社会学理論・社会問題・マスメディア・平和学・国際関係・人類学・比較文化など) の最前線の学問的状況や課題を解説します。毎回の授業は演習形式で行ない、発表と討論のなかで各自が卒業論文の作成を進めていきます。</p>	

専門科目	アドヴァンスト科目	卒業研究B(異文化コミュニケーション日本語)	各自がそれまでに学んだことを振り返り、異文化コミュニケーション日本語・日本語教育に関するレポートを作成し、提出する。レポートの内容は、1. 現在の課題とテーマの決定に到る経緯、2. 1のテーマに関する先行研究、3. 先行研究からわかった点および残された課題とそれに対する対処方法、4. 今後の課題とそれに対する具体的な提言という観点より執筆する。あくまでも既にかかれた内容をまとめるだけでなく、各自の独自の意見を反映していることを評価する。	
		卒業研究B(哲学・歴史学)	本授業では哲学・歴史学分野でそれぞれ指定された図書につき、4通のレポートを提出していただきます。毎回、指定された箇所につき、内容を適切に要約した上で、その妥当性を検討し、他の学者の説や資料もふまえて、自分の意見を記してください。4年間の学習の総決算として、①内容の適切な理解、②問題点の指摘と整理、③関連する学説・資料の調査、④論理的な推論、⑤明解で独自性のある結論、という5つのポイントに注意してレポートを作成してください。	
		卒業研究B(表現文化)	本授業では表現文化の分野でレポート(4回)をかいていただきます。その上で、最終試験を実施し、単位を認定いたします。テーマは文学研究法を基本としつつ、文学を含む表象に関わるものであればなんでも構いません。歌の歌詞、建造物、街並み、和菓子でもテーマになりえます。(1)書評レポート(教科書をまとめる)、(2)リサーチペーパーの構想レポートをまとめる。残りの(3)、(4)については、執筆者が選んだテーマに基づきリサーチペーパーを提出してください。 (オムニバス方式/全30回) (26. 寒河江光徳/7回) 教科書『勝つための論文の書きかた』(鹿島茂)では、論文の書きかたを学ぶ事は人生に勝利するために必要な事であるとする。ここでは、問いの立て方、答えの導き方、あるものをべつなものと比較することの意味について詳述する。 (1. 浅山龍一・4. 田中亮平・6. 木下薫・12. 大野久美・15. 鈴木邦彦・19. 山中正樹・26. 寒河江光徳/23回) 2通目にリサーチペーパーの構想レポートを執筆のテーマに応じて教員の担当を配分する。3通目、4通目のリサーチペーパーについてもレポート・テーマに応じて添削者が変わる。	オムニバス方式
		卒業研究B(社会学)	本授業は、文学部での4年間の学修の集大成として、卒業研究を行うものです。文学部では人間と社会と文化について幅広く学び、とりわけ社会学メジャーにおいては社会学理論・社会問題・マスメディア・平和学・国際関係・人類学・比較文化などの科目により社会についてのより深い考察を行いました。学生の皆さんの社会でのさまざまな経験に加え、こうした学修成果を十分に生かし、4通のレポートを通して、私たちの社会が直面する諸問題について、学生の皆さんが改めて取り組むことを本授業での目的としています。	

学校法人創価大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度				入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成30年度				入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由	
				人	年次	人					3年次	人			
創価大学	経済学部	経済学科		200	—	800	創価大学	経済学部	経済学科		190	18	796	定員変更(△10)/3年次編入学 定員変更(18)	
	法学部	法律学科		250	—	1,000		法学部	法律学科		240	8	976	定員変更(△10)/3年次編入学 定員変更(8)	
	文学部	人間学科		370	—	1,480		文学部	人間学科		350	40	1,480	定員変更(△20)/3年次編入学 定員変更(40)	
	経営学部	経営学科		200	—	800		経営学部	経営学科		190	26	812	定員変更(△10)/3年次編入学 定員変更(26)	
	教育学部	教育学科		80	—	320		教育学部	教育学科		80	—	320		
		児童教育学科		100	—	400			児童教育学科		100	—	400		
	理工学部	情報システム工学科		80	—	320		理工学部	情報システム工学科		80	—	320		
		共生創造理工学科		100	—	400			共生創造理工学科		100	—	400		
	看護学部	看護学科		80	—	320		看護学部	看護学科		80	—	320		
	国際教養学部	国際教養学科		80	—	320		国際教養学部	国際教養学科		90	—	360	定員変更(10)	
	計			1,540		6,160		計			1,500	92	6,184		
[通信教育部]	経済学部	経済学科		2,000	—	8,000		[通信教育部]	経済学部	経済学科		1,000	100	4,200	定員変更(△1,000)/3年次編入学 定員変更(100)
	法学部	法律学科		2,000	—	8,000			法学部	法律学科		1,000	100	4,200	定員変更(△1,000)/3年次編入学 定員変更(100)
	教育学部	教育学科		300	—	1,200		教育学部	教育学科		300	—	1,200		
		児童教育学科		350	—	1,400			児童教育学科		350	—	1,400		
	計			4,650		18,600	→	文学部			750	100	3,200	学部における通信教育の開設(認可申請)	
	計							計			3,400	300	14,200		
創価大学大学院〈修士課程〉	文学研究科	国際言語教育専攻		15	—	30		創価大学大学院〈修士課程〉	文学研究科	国際言語教育専攻		15	—	30	
創価大学大学院〈博士前期課程〉	経済学研究科	経済学専攻		15	—	30		創価大学大学院〈博士前期課程〉	経済学研究科	経済学専攻		15	—	30	
	法学研究科	法律学専攻		15	—	30			法学研究科	法律学専攻		15	—	30	
	文学研究科	英文学専攻		10	—	20	→	<u>国際平和学研究所</u>	<u>国際平和学専攻</u>		16	—	32	研究科の設置(認可又は届出)	
	文学研究科	社会学専攻		10	—	20		文学研究科	英文学専攻		10	—	20		
	文学研究科	教育学専攻		15	—	30		文学研究科	社会学専攻		10	—	20		
	文学研究科	人文学専攻		8	—	16		文学研究科	教育学専攻		15	—	30		
	工学研究科	情報システム工学専攻		30	—	60		文学研究科	人文学専攻		8	—	16		
	工学研究科	生命情報工学専攻		20	—	40		工学研究科	情報システム工学専攻		30	—	60		
	工学研究科	環境共生工学専攻		25	—	50		工学研究科	生命情報工学専攻		20	—	40		
				25	—	50		工学研究科	環境共生工学専攻		25	—	50		
創価大学大学院〈博士後期課程〉	経済学研究科	経済学専攻		5	—	15		創価大学大学院〈博士後期課程〉	経済学研究科	経済学専攻		5	—	15	
	法学研究科	法律学専攻		3	—	9			法学研究科	法律学専攻		3	—	9	
	文学研究科	英文学専攻		5	—	15		文学研究科	英文学専攻		5	—	15		
	文学研究科	社会学専攻		5	—	15		文学研究科	社会学専攻		5	—	15		
	文学研究科	教育学専攻		2	—	6		文学研究科	教育学専攻		2	—	6		
	文学研究科	人文学専攻		4	—	12		文学研究科	人文学専攻		4	—	12		
	工学研究科	情報システム工学専攻		4	—	12		工学研究科	情報システム工学専攻		4	—	12		
	工学研究科	生命情報工学専攻		4	—	12		工学研究科	生命情報工学専攻		4	—	12		
	工学研究科	環境共生工学専攻		3	—	9		工学研究科	環境共生工学専攻		3	—	9		
創価大学大学院〈専門職課程〉	法務研究科	法務専攻		28	—	84		創価大学大学院〈専門職課程〉	法務研究科	法務専攻		28	—	84	
	教職研究科	教職専攻		25	—	50			教職研究科	教職専攻		25	—	50	
	計			251		565		計			267		597		
創価大学別科	日本語研修課程			35	—	35		創価大学別科	日本語研修課程		35	—	35		
	特別履修課程			40	—	40			特別履修課程		40	—	40		
	計			75		75		計			75		75		
創価女子短期大学	現代ビジネス学科			150	—	300		創価女子短期大学	<u>国際ビジネス学科</u>		250	—	500	学科名称変更・定員変更(100)	
	英語コミュニケーション学科			100	—	200	→	<u>英語コミュニケーション学科</u>			0	—	0	平成30年4月学生募集停止	
	計			250		500		計			250		500		